

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所属 薬学部

名前 寺島 朝子

作成日 2025年4月22日

1. 教育の責任

私は、臨床系教員として、2022年4月から科目を担当し、現在までに医療薬学チュートリアル演習Ⅰ、実務実習事前学習Ⅰ、実務実習事前学習Ⅱの科目責任者として複数教員と協働しながら構築した。また、調剤学では科目責任者(加賀谷教授)を支援しながら9/15コマを担当し、他学部合同科目であるチーム医療論ではワーキングメンバー(3年目)として授業構築に携わっている。さらに、薬学総合プレ研究、卒業研究においては、学生の研究指導も行っている。

[薬学部 担当科目]

医療薬学チュートリアル演習Ⅰ(2年前期、必修、1単位)

薬学総合プレ研究(3年通年、必修、2単位)

調剤学(3年後期、必修、1単位)

実務実習事前学習Ⅰ(3年後期、必修、1単位)

処方解析演習(4年前期、必修、1単位)

実務実習事前学習Ⅱ(4年前期、必修、2単位)

実務実習事前学習Ⅲ(4年後期、必修、2単位)

病院実務実習(5年通年、必修、10単位)

卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用)(4年後期～5年通年、必修、12単位)

卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)(6年前期、必修、4単位)

チーム医療論(6年後期、必修、0.9単位)

総合演習Ⅱ(6年後期、必修、20単位)

[保健医療学部 看護学科 担当科目]

病態学Ⅴ(母子) 1コマを分担

[専攻科 助産学専攻 担当科目]

基礎助産学 1コマを分担

このほか、薬学部のCBT・国家試験対策ではS-タスクとして学生の学修支援を行っている。委員会活動は、研修委員会、チューター委員会、共用試験(OSCE)委員会、実務実習委員会の委員を担当している。特に、OSCEに関してはOSCE委員としてOSCEに関する試験実施体制の整備と運営と実務実習事前学習との連携を担っている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の教育理念は、薬剤師の社会的使命に基づいている。薬剤師法第1条には「薬剤師は、調剤や医薬品の供給を通じて公衆衛生の向上に寄与し、国民の健康な生活を確保する」と明記されている。この使命を果たすため、私は大学で学生に必要な知識・技能・態度を身につけさせることに力を入れている。薬学における知識は

サイエンスであり、技能や態度はアートである。私は学生に、これらに関連付けて考える力が不可欠だと考えている。薬剤師の仕事は単なる商いではなく、使命感と責任感を持ち、国民の健康と幸福に貢献するものである。そのため、私は学生に対して、自ら努力を惜しまず、深く考える姿勢を育むことを重視している。最近の学生は知識の丸暗記に偏りがちだが、私は「なぜそうなのか」を問い、経験を通じて学びを深めることを指導している。6年間は長いようで短い。私は、入学時から学生に「医療に携わる者」としての自覚と責任感を持たせて教育していきたいと考えている。

2) 理念をもつに至った背景

私がこの教育理念に至った背景には、さまざまな臨床経験がある。国立大学病院での薬剤師(技官)およびマネージャー(薬剤部副部長)としての経験、地域の病院薬剤師としての実務、さらに保険調剤薬局で患者や生活者に直接携わる業務に従事してきた。また、その間に3つの大学(薬学部2施設、医学部1施設)で学生を教え、教育者としての視点を養う機会にも恵まれた。日本の薬学教育では、臨床と教育の一貫性に欠け、臨床と教育が一見別の分野に見えることがある。しかし、私としては、欧米のように臨床と教育が連携した環境において、臨床に強い教員がその姿勢を示しながら教育を行うべきだと考えている。どのような業務であれ、その先には常に人々の生活や命があり、薬剤師はそれらに対して責任を果たすことが不可欠である。しかし、私自身も学生時代には、この責任の重さを十分に理解していなかったように思う。大学3年生まで、臨床の現場に立つことの重要性を実感できず、卒業を前にして「もっと臨床を見据え、責任ある学びを重ねるべきだった」と痛感したことを記憶している。この後悔が、私が現在教職に就いた理由の一つであり、臨床経験を持つ薬剤師として、学生に学びの意義を伝え、責任感を持って社会に貢献できる人材へと育てたいと強く願っている。

3. 教育の方法・戦略

講義や演習では、できるだけアクティブラーニングを取り入れ、学生に自ら思考させる仕組みを作っている。現在行っている医療薬学チュートリアル演習Ⅰでは、以下の6つの時間を循環させるように授業を構築している:

- ①学生に思考させる時間
- ②自らの思考を文字で表現する時間
- ③自らの思考を言葉で他者に伝える(アウトプットする)時間
- ④自らの思考に対して他者からの意見をもらう時間
- ⑤他者の思考に対して自らの考えを述べる時間
- ⑥他者の意見を踏まえて自らの考えを再構築する時間

このプロセスは、学生にとって頭と感情を使う非常に苦しいものであるが、その重要性を理解してもらうために、時間の許す限り「なぜ」「どうして」「他には？」といった質問を投げかけ、自らの思考に向き合わせるようにしている。3年生の調剤学や実務実習事前学習でも、学生が思考を深めながら学ぶ仕組みを考え、導入している。

アクティブラーニングを効果的に実施するためのスキルは、有識者の講演や学外のワークショップ、また他大学の教員とのディスカッションを通じて磨いている。時代の流れを踏まえ、学生にとって身近な問題から臨床的な問題までを思考できるように、テーマに工夫を凝らしている。ただし、教育方針については学内の様々な教員と意見を合わせる必要がある。本学には多様な教員が集まっており、大学におけるFD(ファカルティ・ディベロップメント)などの機会を活用し、年齢や立場に関係なく意見交換を行い、授業の改善に努めていきたいと考えている。

4. 学習成果

- ・ 学生の授業評価アンケートでは、これまで担当してきた科目において、いずれも学生の学習意欲が高く、授業の難易度も適切なレベルであった。
- ・ 授業内容の習得度も高く、「医療薬学チュートリアル演習Ⅰ」および「実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ」では、全員を学習目標に到達させることができた。
- ・ 教員の熱意についても、十分に学生に伝わっていたとの評価を得ている。
- ・ 「調剤学」では、2024年度の本試験において全員が合格し、追再試験の実施が不要であったことから、教育方法に特段の問題はなかったと考えている。
今後も引き続きスライドの見やすさを改善し、同レベルの講義や演習を提供する予定である。

5. 改善のための努力

担当している科目はいずれも複数の教員で構築しているため、学生に効果的な授業内容を提供するには、教員間での意識の統一が不可欠である。授業改善に向けては、事前の情報共有をより密に行い、課題が生じた際には速やかに共有し、協力して対応策を講じていきたいと考えている。また、近年は学生の多様化が進み、知識や理解の受け取り方だけでなく、精神的な状態や感情面への配慮も含めた対応が求められている。こうした点を踏まえながら、教員間で柔軟かつ継続的に情報を共有し、学生にとってより安心して学べる学修環境の提供を目指していきたい。

6. 今後の目標

短期的な目標として、次年度の開講に向けて、今年度中に講義資料と運用方法のブラッシュアップを図る。これにより、より効果的な授業が提供できるようにする。長期的な目標としては、調剤学や実務実習事前学習など高学年の授業に繋がるように、引き続き学生

の思考を引き出す授業づくりを進める。また、実務実習事前学習Ⅰ～Ⅲの後に薬学共用試験 OSCE が控えているため、学生が知識だけでなく技能や態度を身に付けられる実習の構築も目指す。また、研究指導では、自身の研究テーマ(添付資料⑨～⑪)を通して、取り組みを伝えてゆく所存である。これらの取り組みを通じて、今後も学生にとってより充実した学びの場を提供できるよう努めていきたいと考えている。

【添付資料】

- ①(シラバス)119_医療薬学チュートリアル演習Ⅰ2024年度前期
- ②(シラバス)調剤学2024年度後期
- ③(シラバス)121_実務実習事前学習Ⅰ2024年度後期
- ④(シラバス)124_実務実習事前学習Ⅱ2024年度前期
- ⑤(授業評価アンケート)2024年度(医療薬学チュートリアル演習Ⅰ)
- ⑥(授業評価アンケート)2024年度(調剤学)
- ⑦(授業評価アンケート)2024年度(実務実習事前学習Ⅰ)
- ⑧(授業評価アンケート)2024年度(実務実習事前学習Ⅱ)
- ⑨(研究活動)日本薬学会第145年会 一般学術発表(要旨)
- ⑩(研究活動)2024 日本薬学教育学会要旨
- ⑪(研究活動)2024 日本薬学教育学会要旨

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
医療薬学チュートリアル演習 I Tutorial for Pharmaceutical Care I		必修	演習	1単位 (30時間)	2年前期	寺島 朝子、佐野 和美、石橋 芳雄、鈴木 勉、 定本清美、加賀谷 肇、加藤 裕久、古屋 博行、 加藤 紘一、市丸 嘉、山崎 泰広、須藤 遥、 殿山 泰弘、進藤 綾大、塩田 清二、若山 恵	○
ナンバリングコード	YCPO2	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開の オフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける。			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP1) 社会的責任感と使命感、倫理観を有し、国際社会の発展に貢献できる。 DP2) 専門的な知識・技術を発揮することができる。					
薬学臨床		DP3) 地域の健康についての知識・教養を身につけている。 DP4) 主体的に考え、他者と協調して行動し、発信することができる。					
授業概要	社会が抱える事案を題材に、主にスモールグループディスカッション(SGD)の形式で、問題解決学習(PBL)を行う。日本が抱える多様な社会問題に目を向けて共有した後に、1つの社会問題に焦点を当て、グループごとに課題、課題解決の目的の明確化、目標設定、情報収集(調べもの)、課題解決の提案・具体化、プレゼンテーション(発表会)のプロセスを経て、最終的な解決策の提案(プロダクト)の作成を行う。また、同様のプロセスを経ながら、日本における少子高齢化社会に求められる医療・介護・福祉の形に目を向けたうえで、地域における医薬品の適正使用に関する課題抽出から課題解決策の作成までを行う。						
到達目標	1) 現代社会が抱える課題について意見を述べるができる。 2) 地域の保健・福祉の観点から、患者・生活者を取り巻く社会問題について説明できる。 3) 社会問題の解決のために、取り組むべき課題を抽出できる。 4) 社会問題の解決のために、薬剤師と薬学が果たす役割を提案できる。 5) 課題解決のための具体策を、他者にわかりやすく表現できる。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学修 (予習・復習・課題等)			SBOコード	担当教員	
1	グループディスカッションの基本	SGDの目的や方法、メンバーの役割を考える。 事前学修(20分) 受動的学習と能動的学習の違いについて考える。 事後学修(10分) 配布資料等を参考に第1回のポイントを振り返る。			A-(1)-③-7 A-(2)-①-3 B-(1)-4 E1-(4)-4	寺島 朝子 SGDによる演習 等に係るサポート ・佐野 和美 ・石橋 芳雄 ・鈴木 勉 ・定本 清美 ・加賀谷 肇 ・加藤 裕久 ・古屋 博行 ・加藤 紘一 ・市丸 嘉 ・山崎 泰広 ・須藤 遥 ・殿山 泰弘 ・進藤 綾大 ・塩田 清二 ・若山 恵	
2	日本の社会問題を知る	日本が抱える多様な社会問題を列挙する。 事前学修(20分) いま解決しないと近い将来、より多くの代償を支払うことになるだろう日本の問題について調べる。 事後学修(10分) 第2回で共有した情報を振り返り、整理する。			A-(2)-①-3 D1-(2)-③-3 E1-(4)-4 F-(1)-①-2		
3	課題を抽出、解決の目的の明確化、目標(ゴール)設定	1つの社会問題に焦点を当て、課題を抽出、解決の目的の明確化、目標(ゴール)設定を行う。目標到達の戦略を立てる。 事前学修(20分) 課題解決のための思考の整理術について考える。 事後学修(10分) 課題解決(目標到達)のために必要な情報を考える。			A-(2)-①-3 D1-(2)-③-3 E1-(4)-4 F-(1)-①-2		
4	情報収集および解決策の提案	課題について情報を収集、整理する。課題解決のためにアイデアを出し切る。 事前学修(20分) 課題解決(目標到達)のために必要な情報の整理術について考える。 事後学修(10分) 第4回で共有したアイデアを振り返り、整理する。			A-(2)-①-3 D1-(2)-③-3 E1-(4)-4 F-(1)-①-2		
5	解決策の具体化 プレゼンテーション準備	具体性ある策に絞り込む。実行可能で有効な解決策を決める。プレゼンテーションにおいてわかりやすく表現するアイテムを準備する。 事前学修(20分) 自分が伝えたいことと、聞き手の立場で聞きたいことの違いについて考える。 事後学修(10分) プレゼンテーションの目的に沿った、効果的な伝え方を考える。			A-(2)-①-3 D1-(2)-③-3 E1-(4)-4 F-(1)-①-2		
6	プレゼンテーション	班の提案をプレゼンテーションする。他者のプレゼンテーションから改善点を学ぶ。 事前学修(20分) プレゼンテーションの質疑応答に備える。 事後学修(10分) 質疑応答などから得た学びや改善点を整理する。			A-(2)-①-3 D1-(2)-③-3 E1-(4)-4 F-(1)-①-2		
7	課題解決策を伝える最終プロダクトの作成	質疑応答等から得られた気づきを基に、改善点等を踏まえて再構築し、プロダクトを作成する。 事前学修(20分) 改善点を踏まえた再構築の案を考える。 事後学修(10分) 第2回～第7回までのプロセスを復習する。			A-(2)-①-3 D1-(2)-③-3 E1-(4)-4 F-(1)-①-2		
8	少子高齢化社会の問題を知る	日本がおかれている少子高齢化社会における問題を様々な角度から列挙する。 事前学修(20分) 日本の少子高齢化社会の背景について調べる。 事後学修(10分) 第8回で共有した情報を振り返り、整理する。			A-(2)-①-3 E2-(1)-③-13 E2-(11)-①-3 F-(1)-①-2		

9	少子高齢化社会に求められる医療・介護・福祉の形	高齢者が抱える不安の現状を知り、その対策として求められる地域の医療・介護・福祉の形をイメージする。高齢者の生活や健康を支える職種を知る。 事前学修(20分) 横浜市等のHP等を活用して、地域の医療・介護・福祉サービスの現状を調べる。 事後学修(10分) 第9回で共有した情報を振り返り、整理する。	B-(1)-3 F-(1)-①-2	
10	将来の薬剤師と薬学が果たす役割	少子高齢化社会に求められる薬剤師像を考える。地域における医療機関と薬局の連携の重要性を考える。 事前学修(20分) 薬剤師の職能とさまざまな職務について調べる。 事後学修(10分) 地域包括ケアシステムにおいて薬剤師に求められる役割を復習する。	A-(1)-④-4 B-(1)-3 F-(1)-①-1,2 F-(4)-②-2 F-(5)-③-1 F-(5)-④-3	
11	課題を抽出、解決の目的の明確化、目標(ゴール)設定	薬が正しく安全に使われるために、医薬品の適正使用に焦点を当て、課題を抽出、解決の目的の明確化、目標(ゴール)設定を行う。目標到達の戦略を立てる。 事前学修(20分) 薬を正しく安全に使うとはどういうことか考えておくとともに、薬が正しく安全に使われない場合に発生する問題についても考える。 事後学修(10分) 第11回で共有した情報を振り返り、整理する。	D1-(2)-③-3 E1-(3)-2 E2-(1)-③-13 E2-(11)-①-1 E2-(11)-①-3 F-(2)-⑥-3	
12	情報収集および解決策の提案	課題について情報を収集、整理する。課題解決のためにアイデアを出し切る。 事前学修(20分) 収集すべき情報と収集方法を考える。 事後学修(10分) 第12回で共有した情報を振り返り、整理する。	A-(1)-④-4 A-(1)-③-5 B-(1)-2 D1-(2)-③-3 F-(1)-①-2	
13	解決策の具体化 プレゼンテーション準備	具体性ある策に絞り込む。実行可能で有効な解決策を決める。プレゼンテーションにおいてわかりやすく表現するアイテムを準備する。 事前学修(20分) 自分が伝えたいことと、聞き手の立場で聞きたいことの違いについて考える。 事後学修(10分) プレゼンテーションの目的に沿った、効果的な伝え方を考える。	A-(1)-④-4 A-(1)-③-5 B-(1)-2 D1-(2)-③-3 F-(1)-①-2	
14	プレゼンテーション	班の提案をプレゼンテーションする。他者のプレゼンテーションから改善点を学ぶ。 事前学修(20分) プレゼンテーションの質疑応答に備える。 事後学修(10分) 質疑応答などから得た学びや改善点を整理する。	A-(1)-④-4 A-(1)-③-5 B-(1)-2 D1-(2)-③-3 F-(1)-①-2	
15	課題解決策を伝える最終プロダクトの作成	質疑応答等から得られた気づきを基に、改善点等を踏まえて再構築し、プロダクトを作成する。 事前学修(20分) 改善点を踏まえた再構築の案を考える。 事後学修(30分) 第1回～第15回を振り返り、学修成果や成長を記録する。	A-(1)-④-4 B-(1)-2 B-(1)-3 F-(4)-②-2 F-(5)-③-4	

寺島 朝子
SGDによる演習等サポート;
佐野 和美
石橋 芳雄
鈴木 勉
定本 清美
加賀谷 肇
加藤 裕久
古屋 博行
加藤 紘一
市丸 嘉
山崎 泰広
須藤 遥
殿山 泰弘
進藤 綾大
塩田 清二
若山 恵

評価	SGDへの参加や発言・発表(40%)、プレゼンテーション用の資料作成と発表(30%)、レポート・提出物(20%)、ポートフォリオ(10%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	課題発表に対して適宜質問および補足説明を行う。
教科書	事前に資料を共有し、この資料に沿って進行するため教科書は使用しない。
参考図書など	実践! 探究・グループディスカッション・プレゼンテーション/マイナビ進学編集部/マイナビ出版/ISBN:978-4839970833 プロジェクト学習の基本と手法—課題解決力と論理的思考力が身につく/鈴木敏恵/教育出版/ISBN:978-4316803500 薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム 改訂版/後藤恵子、有田悦子、井手口直子[編]/羊土社/ISBN:978-4758109420
アクティブ・ラーニング	講義でのグループワークやディスカッションをもとに課題への提案をプレゼンテーションする。
実務経験のある教員による授業	臨床(医師、薬剤師)、医薬品安全管理業務に従事した経験から助言を行う。
留意事項	・この演習はグループワークや発表を行いながら進行するため原則として遅刻や欠席に対する補完はできません。また、1回の欠席が次回からの内容に大きく影響します。くれぐれも注意してください。 ・この演習では日本における地域社会の現状に目を向ける必要があります。様々な角度から積極的に情報収集を行って主体的に臨んでください。 ・資料の共有や指示等はmanabaを通して行います。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
調剤学 Dispensing Pharmacy	必修	講義	2単位 (30時間)	3年後期	加賀谷肇、寺島朝子、細谷龍一郎	○
ナンバリングコード	YCPF2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開の オフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける。			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1) 社会的責任感と使命感、倫理観を有し、国際社会の発展に貢献できる。 DP2) 専門的な知識・技術を発揮することができる。					
薬学臨床						
授業 概要	薬物治療の一環である調剤は、疾病治療に対する処方処方の妥当性の確認行為と薬剤学に立脚した技術的調剤行為である。調剤の守備範囲は広く、医薬品の調製のみならず、薬剤師による医薬品適正使用のための薬学的管理指導と対人業務にウエイトが置かれている。本講義では医療チームの一員として調剤を正確に実施できるようになるために、処方せん授受から服薬支援、処方提案に関連する基本的知識、調剤の技術、調剤に対する姿勢・態度を修得する。					
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師の使命を理解する。 2. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。 3. 処方オーダーリングシステムを概説できる。 4. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。 5. 調剤を法的記載事項に基づいて説明できる。 6. 代表的な処方せん例の監査における注意点を説明できる。 7. 不適切な処方せんの処置について説明できる。 8. 代表的な医薬品の用法・用量および投与方法について説明できる。 9. 患者に適した剤形を選択できる。 10. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。 11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。 12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。 13. 薬物間相互作用のメカニズムを説明できる。 					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)		SBOコード	担当教員	
1	調剤学の基礎概念(調剤論)	調剤の基礎、調剤の新しい概念 (P1~42) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める		F-(2)-③-11 F-(2)-④-2 F-(2)-⑤-1~ 6,12,1	加賀谷肇	
2	調剤学の基礎概念(医薬品の管理)	麻薬・向精神薬・覚せい剤の管理、薬剤経済学などを含む (P47~52、76~89、97~99、105~110) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める		F-(2)-③-11 F-(2)-④-2 F-(2)-⑤-1~ 6,12,1	加賀谷肇	
3	処方と調剤業務①	内用剤 (P251~257、361~385) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める		F-(2)-①-1,2,4	寺島朝子	
4	処方と調剤業務②	外用剤 (P387~418) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める		F-(2)-①-1,2,4	寺島朝子	
5	処方箋の点検	処方箋の点検、処方意図の理解、処方解析、医薬品の投与方法(用法・用量) (P251~258、265~289) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める		F-(2)-②-1~5	寺島朝子	
6	医薬品の管理実際	麻薬・向精神薬・覚せい剤の管理、薬剤経済学など (P105~116) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める		F-(2)-④-2 F-(2)-⑤-1~ 6,12,13	加賀谷肇	
7	医薬品の投与方法	薬用量、疾患と禁忌の医薬品、投与剤形の選択など (P143~171) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める		F-(3)-③-1~4	寺島朝子	
8	配合と併用	理化学的的配合変化や併用に関する注意事項など (P191~201) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める		F-(3)-③-1~4	寺島朝子	
9	薬物相互作用	薬物相互作用 (P202~212) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める		F-(3)-③-1~4	寺島朝子	

10	服薬指導の基礎	薬歴作成と患者接遇、薬剤服用歴、薬剤師の病棟業務、在宅患者訪問薬剤管理指導業務 (P305～318) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F-(2)-②-1～5	寺島朝子
11	服薬指導の実際①(患者への情報提供)	コンプライアンスと患者コミュニケーション、服薬指導指針、薬剤情報提供の進め方、高齢者・小児・妊婦等への服薬指導など (P319～324、337～356) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F-(2)-②-1～5	寺島朝子
12	注射剤の調剤①	注射剤概説、注射剤の調剤、注射処方箋と注射剤調剤の手順、注射剤セット業務 (P419～431) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F-(2)-②-1～5	細谷龍一郎
13	注射剤の調剤②	注射剤の混合調製(無菌製剤、バイオハザード含む)、輸液療法、電解質の補給・補正、注射剤の配合変化 (P431～452) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F-(2)-②-1～5	細谷龍一郎
14	服薬指導の実際②(重篤副作用と早期発見)	ブレイブ活動、服薬に伴う自覚症状、重大な副作用の初期症状など (P326～337) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F-(2)-⑥-7	寺島朝子
15	医療制度、まとめ	医療制度、医療施設、医療保障、まとめ (P503～524) 事前学習(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得る 事後学習(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F-(2)-⑥-7	加賀谷肇

評価	小テスト(30%)、課題(10%)、定期試験(60%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	・課題や小テスト等のフィードバックは講義時間内に口頭あるいはmanabaにて行う。 ・定期試験後は設定した質問日時に個別学習指導を希望学生に行う。
教科書	調剤学総論 改訂14版/堀岡正義/南山堂/ISBN: 978-4-525-77234-5
参考図書など	第十四改訂 調剤指針/日本薬剤師会編/薬事日報社 実践処方例とその解説/第2版/井尻好雄 他編著/じほう
アクティブ・ラーニング	実施予定なし
実務経験のある教員による授業	すべての講義は実務経験のある教員が担当する。
留意事項	調剤学は実務実習事前学習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、さらには実務実習に直結する科目なので、暗記学習にとどまらず、知識の応用が可能となるよう一つ一つ丁寧に理解して知識の定着を図ること。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
実務実習事前学修 I Pre-study for Practical Training I		必修	実験・実習	1単位 (45時間)	3年後期	寺島朝子、加賀谷肇、加藤裕久、国分秀也、定本清美、佐藤淳也、佐野和美、船田正彦、古屋博行、湯本哲郎、若山恵、小野塚真理、加藤英明、竹内尚子、鳥越一宏、池上大悟、尾関あゆみ、細谷龍一郎、石井英俊、浦裕之、田中怜	○
ナンバリングコード	YCPF2	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開のオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける。			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP1) 社会的責任感と使命感、倫理観を有し、国際社会の発展に貢献できる。					
薬学臨床		DP2) 専門的な知識・技術を発揮することができる。					
		DP3) 地域の健康についての知識・教養を身につけている。					
		DP4) 主体的に考え、他者と協調して行動し、発信することができる。					
授業概要	4年次の実務実習事前学修ⅡおよびⅢに先立って、薬剤師として病院や薬局などで薬剤師の職務を遂行するために必要な、基本的知識、技能、態度を修得する。内容は、実際に経験する実習と、それに必要な講義及び演習で構成される。実習を通して、基本的知識と体験を結びつけ、臨床現場における薬剤師の位置づけや役割を具体的なイメージを持って学修する。						
到達目標	1) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について理解する。 2) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべきことを理解する。 3) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を認識する。 4) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。 5) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。 6) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。 7) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。 8) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学修(予習・復習・課題等)			SBOコード	担当教員	
1	臨床で学ぶための準備(1)	心構え 医療の担い手が守るべき規範や法令 事前学修(30分) 薬剤師としての心構えについて考えておく。 事後学修(30分) ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(1)-②-1	寺島朝子 加賀谷肇 加藤裕久 国分秀也 定本清美 佐藤淳也 佐野和美 船田正彦 古屋博行 湯本哲郎 若山恵 小野塚真理 加藤英明 竹内尚子 鳥越一宏 池上大悟 尾関あゆみ 細谷龍一郎 石井英俊 浦裕之 田中怜	
2	臨床で学ぶための準備(2)	個人情報・自己決定権への配慮 事前学修(30分) ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分) ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(1)-②-2		
3	薬剤師の社会貢献	薬剤師の社会貢献の重要性 事前学修(30分) ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分) ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(1)-②-3		
4	薬局における薬剤師業務	薬局における薬剤師業務の流れ 薬局における薬学的管理の重要性 事前学修(30分) ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分) ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(1)-②-1 F-(1)-③-1.2		
5	病院における薬剤師業務	病院における薬剤師業務の流れ 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務 事前学修(30分) ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分) ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(1)-②-1 F-(1)-③-3		
6	入院患者に対する薬剤師業務(1)	病院における薬学的管理の重要性 事前学修(30分) ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分) ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(1)-③-1.2		
7	入院患者に対する薬剤師業務(2)	病院に所属する医療スタッフの業務と薬剤師の関わり 事前学修(30分) ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分) ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(1)-③-4		
8	調剤業務に関わる事項	処方箋の取り扱い 処方箋の監査 疑義照会 事前学修(30分) ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分) ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(1)-②-1 F-(1)-③-2.4 F-(2)-①-1		

評価	ルーブリック評価(40% 各実習内容に対して実施)、課題・レポート(30% 各実習内容で課す)、実習試験(30% 実習最終日に実施)で評価を行う。
課題に対するフィードバックの方法	課題については、実習中に修得状況等を確認しフィードバックする。また、個別に質問があれば毎回の授業・実習終了後やオフィスアワー等の時間に対応する。
教科書	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 薬剤師業務の基本[技能] 第3版/上村直樹、平井みどり 編/羊土社/第3版/ISBN 978-4-7581-0938-3 実習書として「令和6年度 実務実習事前学修Ⅰ WORKBOOK」を別途配布する
参考図書など	①調剤学総論 改訂第14版/堀岡 正義 著/南山堂/ISBN: 978-4-525-77234-5 (調剤学の教科書) ②新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 薬剤師業務の基本[知識・態度] 第3版/上村直樹、平井みどり 編/羊土社/第3版/ISBN 978-4-7581-0937-6 (実務実習事前学修Ⅱの教科書) ③第十四改訂 調剤指針 増補版/日本薬剤師会 編/薬事日報社/ISBN 978-4-8408-1596-3 C3047 ④臨床薬学Ⅰ (スタンダード薬学シリーズⅡ-7)/日本薬学会等 編/東京化学同人/ISBN 9784807917198
アクティブ・ラーニング	スモールグループディスカッションや発表、ロールプレイなどの手法で体験的に学修する。
実務経験のある教員による授業	実習全体を通して実務経験のある教員が担当する
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・調剤学の内容を踏まえて理解を深めること。 ・実習のルールや進め方などについては第1回の実習の導入で説明する。 ・実務実習事前学修では清潔な白衣と調剤用の履物を着用する。準備等については事前にmanabaで連絡する。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員による科目
実務実習事前学習Ⅱ Pre-study for Practical Training II		必修	実験・実習	2単位 (78時間)	4年前期	寺島朝子、加賀谷肇、加藤裕久、国分秀也、定本清美、佐藤淳也、佐野和美、船田正彦、古屋博行、湯本哲郎、若山恵、小野塚真理、加藤英明、竹内尚子、鳥越一宏、池上大悟、尾関あゆみ、細谷龍一郎、石井英俊、浦裕之、田中怜	
ナンバリングコード	YCPF2	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開の オフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける。			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
基礎科目		DP1) 社会的責任感と使命感、倫理観を有し、国際社会の発展に貢献できる。 DP2) 専門的な知識・技術を発揮することができる。					
薬学臨床		DP3) 地域の健康についての知識・教養を身につけている。 DP4) 主体的に考え、他者と協調して行動し、発信することができる。					
授業概要	実務実習事前学習ⅡおよびⅢは、5年次に行われる薬局実務実習、病院実務実習に先立って、大学内で調剤、無菌操作、服薬指導、医薬品の供給・管理、薬物療法に必要な情報の取扱いなど、薬剤師の職務を遂行するために必要な知識、技能、態度を修得する。実務実習事前学習Ⅱでは、実務実習事前学習Ⅲで行う実践的なトレーニングに向けて、主に基礎・基本的な知識、技能を身につける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 処方箋の受付から投薬までの基本的な流れを理解して、説明できる。 2) 処方箋に基づき疑義照会ができる。 3) 処方箋に基づき薬袋・薬札を作成できる 4) 処方箋に基づく基本的な計数調剤ができる。 5) 計量調剤(散剤、水剤、軟膏)の器具の取扱いができる。 6) 注射剤と輸液の調剤の基本的な知識を修得する。 7) 患者・来局者対応を基本的知識に基づき実施できる。 8) 服薬指導を基本的知識に基づき実施できる。 9) 患者教育を基本的知識に基づき実施できる。 10) 患者および種々の情報源から、薬物療法に必要な情報を収集し、活用できる。 11) 医薬品の管理と供給に関わる基本的知識と技能を修得して、適切に取扱うことができる。 12) 処方から服薬までの過程において生じやすい過誤や、医薬品のリスクを理解し、リスク回避の具体策と発生後の対処法を考える。 13) 医療チームの一員として病院・薬局における薬剤師の業務や地域の保健・医療・福祉における薬剤師の役割について説明できる。 14) 災害時における薬剤師の役割について説明できる。 15) プライマリケア、セルフメディケーションの重要性を理解し、適切な対応の選択やアドバイスができる。 						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			SBOコード	担当教員	
1	オリエンテーション	臨床における心構え 薬剤師の役割 薬学臨床の基礎 事前学修(30分)実務実習事前学習Ⅰのワークブックを振り返っておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(1)-②-1, 2, 3 F-(1)-③-1, 2, 3, 4	寺島朝子 加賀谷肇 加藤裕久 国分秀也 定本清美 佐藤淳也 佐野和美 船田正彦 古屋博行 湯本哲郎 若山恵 小野塚真理 加藤英明 竹内尚子 鳥越一宏 池上大悟 尾関あゆみ 細谷龍一郎 石井英俊 浦裕之 田中怜	
2	医薬品調製の基礎 (1) 処方監査、疑義照会	処方監査 疑義照会 後発医薬品の選択手順 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所を目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(2)-②-1, 2, 3, 4, 5, 6 F-(2)-③-4, 5 F-(2)-⑥-1		
3	医薬品調製の基礎 (2) 処方箋に基づく薬袋作成、計数・計量調剤	薬袋・薬札作成 計数調剤 計量調剤(散剤、水剤、軟膏)と監査 散剤・水剤・軟膏の配合変化 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所を目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(2)-③-1, 2, 3, 5, 8		
4	医薬品調製の基礎 (2) 処方箋に基づく薬袋作成、計数・計量調剤	薬袋・薬札作成 計数調剤 計量調剤(散剤、水剤、軟膏)と監査 散剤・水剤・軟膏の配合変化 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所を目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(2)-③-1, 2, 3, 5, 8		
5	医薬品調製の基礎 (3) 注射剤と輸液	薬袋・薬札作成 注射剤・輸液の種類と適応 注射剤・輸液の調剤と監査 注射剤・輸液の配合変化 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所を目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(2)-③-1, 2, 5, 8 E(3)-③-4, 5, 6		
6	医薬品調製の基礎 (4) 患者・来局者対応、服薬指導	患者・来局者対応 服薬指導 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所を目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(2)-④-1, 2, 3, 4, 5		
7	医薬品調製の基礎 (5) 患者教育	患者教育 使用上の説明が必要な製剤の取扱い方法 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所を目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。			F-(2)-④-1, 5, 6, 7, 8		

8	薬物療法の実践のための基礎 (1)患者情報の把握	基本的な医療用語、略語 患者情報の把握 フィジカルアセスメント アドヒアランスの評価と対処法 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(3)-①-1, 2, 3, 4 F-(3)-③-3	寺島 朝子 加賀谷 肇 加藤 裕久 国分 秀也 定本 清美 佐藤 淳也 佐野 和美 船田 正彦 古屋 博彦 湯本 哲郎 若山 恵 小野塚真理 加藤 英明 竹内 尚子 鳥越一宏 池上 大悟 尾関あゆみ 細谷龍一郎 石井英俊 浦 裕之 田中 怜
9	薬物療法の実践のための基礎 (2)医薬品情報の収集と活用	医薬品情報に基づく医薬品の評価 医薬品情報の収集・整理・加工 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	E3-(1)-⑦-2, 3 F-(3)-②-1	
10	薬物療法の実践のための基礎 (3)処方設計と提案	科学的根拠に基づいた薬物投与設計 病態や整理特性を考慮した薬剤選択 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	E4-(2)-②-3 F-(3)-③-1, 2	
11	薬物療法の実践のための基礎 (4)薬物療法の効果と副作用の評価、POSによる記録	医薬品の効果、副作用のモニタリングと評価 POSの考え方を利用した記録の記載方法 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(3)-③-3 F-(3)-④-1, 2, 3	
12	医薬品の供給と管理	劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚せい剤原料、特定生物由来製品等の管理と取扱い 院内製剤 薬局製剤・漢方製剤 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(2)-⑤-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	
13	安全管理(リスクマネジメント)	ハイリスク薬管理 調剤過誤防止・インシデント報告 スタンダードプリコーション リスクマネジメントプラン 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(2)-⑥-1, 2, 3, 5, 6, 7	
14	在宅医療・居宅介護と薬剤師	医療機関におけるチーム医療 地域におけるチーム医療(訪問) 医療・介護 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(4)-①-1, 2, 3 F-(4)-②-1, 2 F-(5)-①-1, 2, 3	
15	地域保健への参画 災害時医療と薬剤師	地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画 災害時医療 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(5)-②-1, 2 F-(5)-④-1	
16	プライマリケア、セルフメディケーションの実践	プライマリケア セルフメディケーション 要指導医薬品・一般用医薬品の取り扱い 事前学修(30分)ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修(30分)ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(5)-③-1, 2, 3, 4	

評価	ルーブリック評価(45%)、作成したプロダクトおよびレポート(10%)、実習試験(45%)で総合評価を行う。
課題に対する フィードバックの方法	実習中に習得状況等を確認しフィードバックする。 毎回実習終了時に適宜質疑応答および補足説明を行う
教科書	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 薬剤師業務の基本[知識・態度]/上村直樹、平井みどり 編/羊土社/第3版/ISBN 978-4-7581-0937-6 実習書として「令和6年度 実務実習事前学習Ⅱ WORKBOOK」を別途配布する
参考図書など	①調剤学総論 改訂第14版/堀岡 正義 著/南山堂/ISBN: 978-4-525-77234-5 (調剤学の教科書) ②新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 薬剤師業務の基本[技能] 第3版/上村直樹、平井みどり 編/羊土社/第3版/ISBN 978-4-7581-0938-3 (実務実習事前学習Ⅰの教科書) ③第十四改訂 調剤指針 増補版/日本薬剤師会 編/薬事日報社/ISBN 978-4-8408-1596-3 C3047 ④臨床薬学Ⅰ(スタンダード薬学シリーズⅡ-7)/日本薬学会等 編/東京化学同人/ISBN 9784807917198 ⑤臨床薬学Ⅱ(スタンダード薬学シリーズⅡ-7)/日本薬学会等 編/東京化学同人/ISBN 9784807917204 ⑥臨床薬学Ⅲ(スタンダード薬学シリーズⅡ-7)/日本薬学会等 編/東京化学同人/ISBN 9784807917211
アクティブ・ラーニング	実習内容に合わせて適宜実施する
実務経験のある 教員による授業	実習全体を通して実務経験のある教員が担当する
留意事項	・調剤学および実務実習事前学習Ⅰの内容を踏まえて理解を深めること。 ・実習のルールや進め方などについては第1回の実習の導入で説明する。 ・実務実習事前学修では清潔な白衣と調剤用の履物を着用する。準備等については事前にmanabaで連絡する。

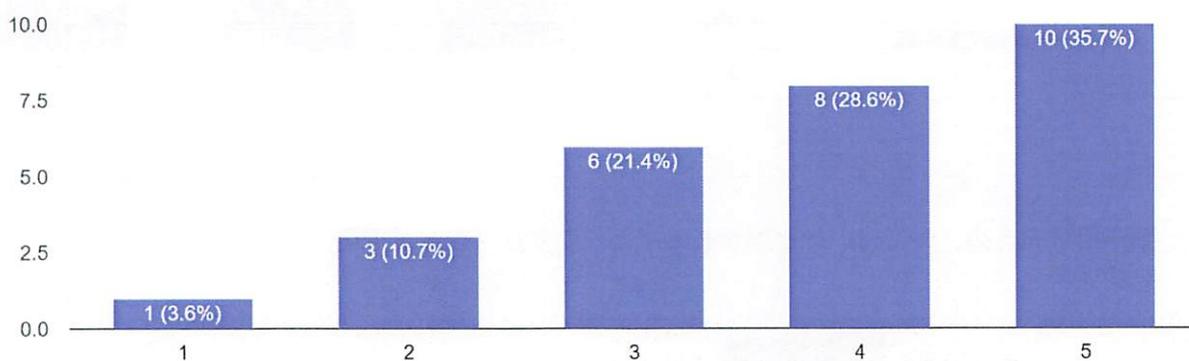
2024年度 薬学部授業評価アンケート

科目名	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	科目担当教員	寺島 朝子
コード	YCPO2	配当年次	2年前期
評定点	88.37	必修・選択の別	必修

アンケート結果

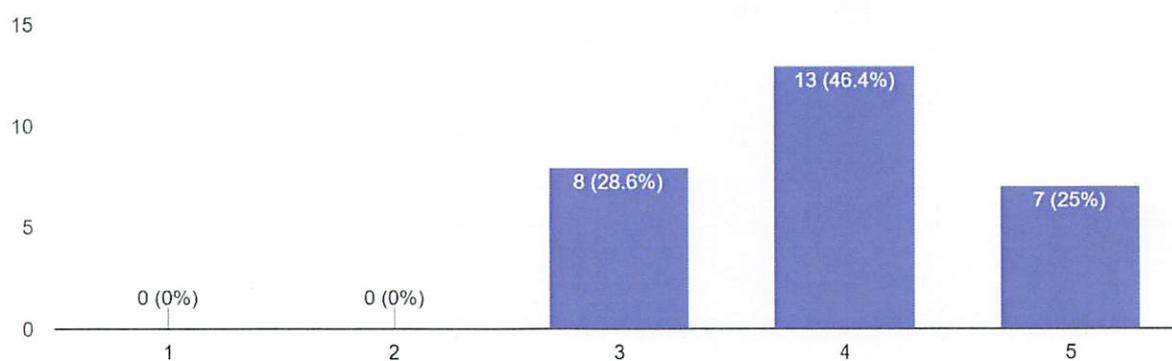
この科目に関する学修意欲はどうでしたか

28件の回答



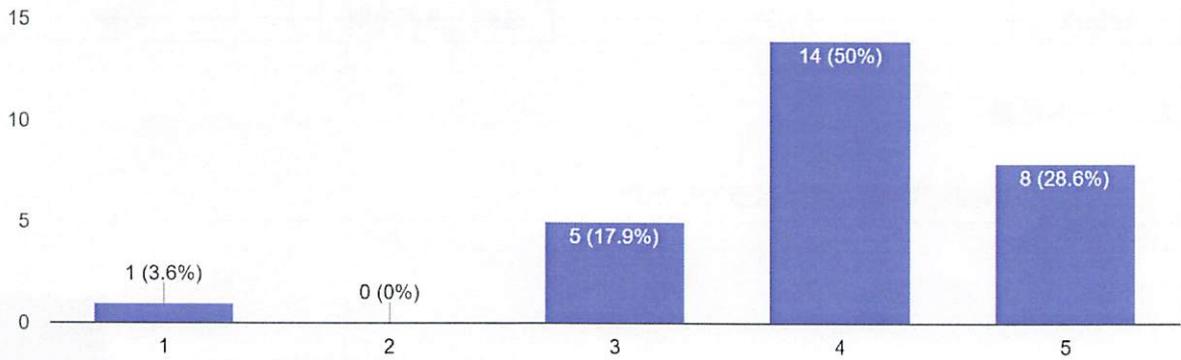
この授業の難易度はどうでしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

28件の回答



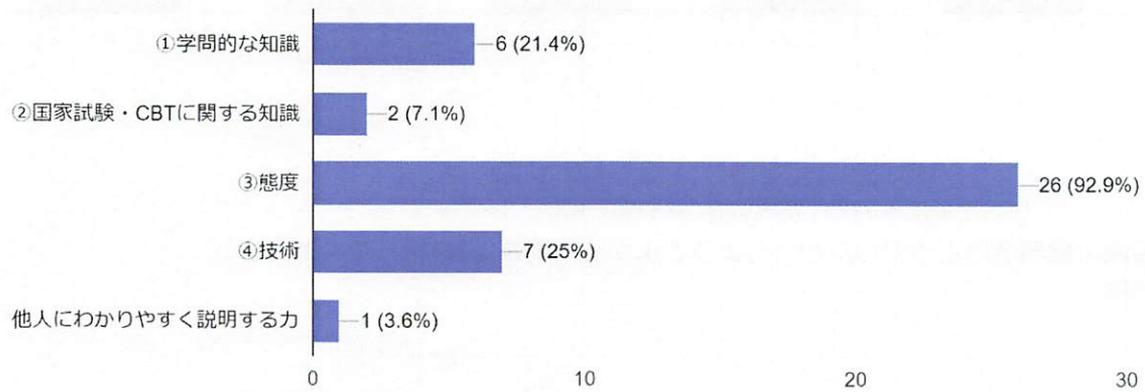
この授業の内容は身に付きましたか (到達目標を達成できましたか)

28件の回答



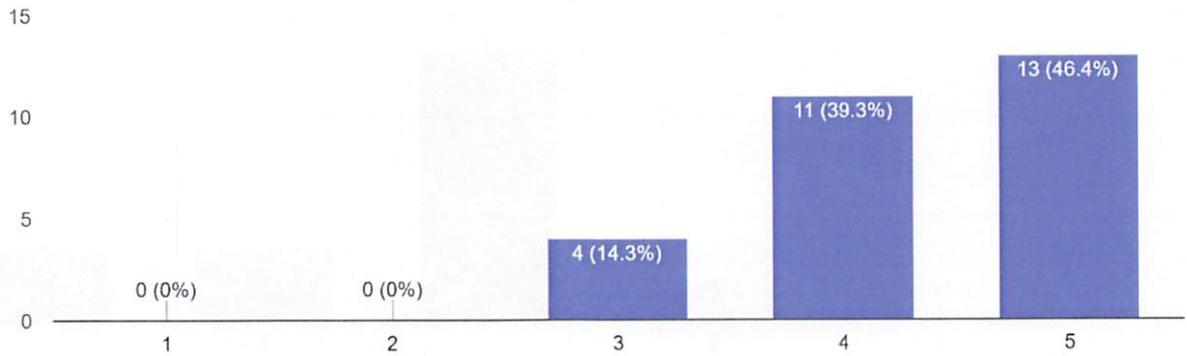
到達目標を含め、身に付いたと思うものはどれですか (複数選択可)

28件の回答



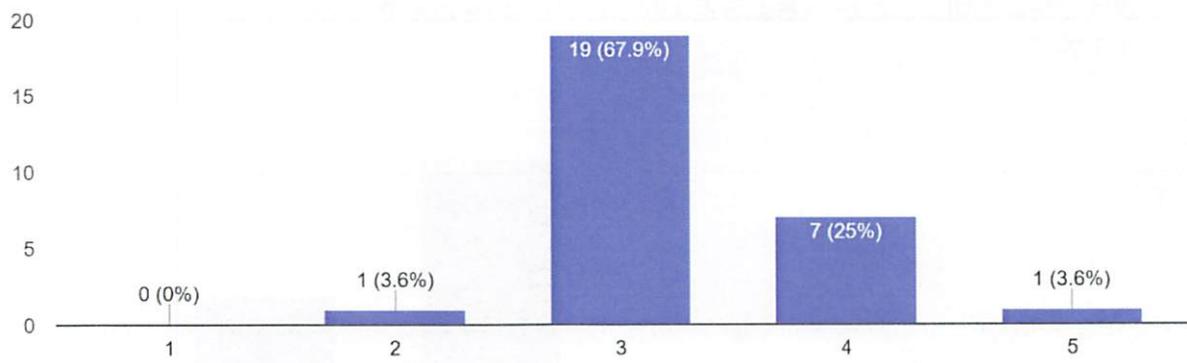
教員に熱意は感じられましたか

28件の回答



講義の進行速度は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

28件の回答



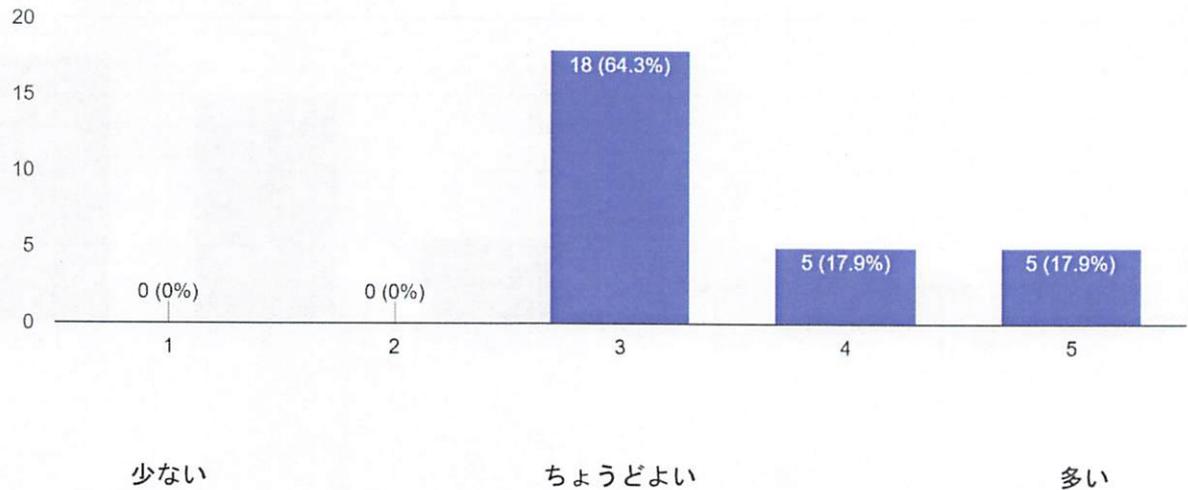
遅い

ちょうどよい

速い

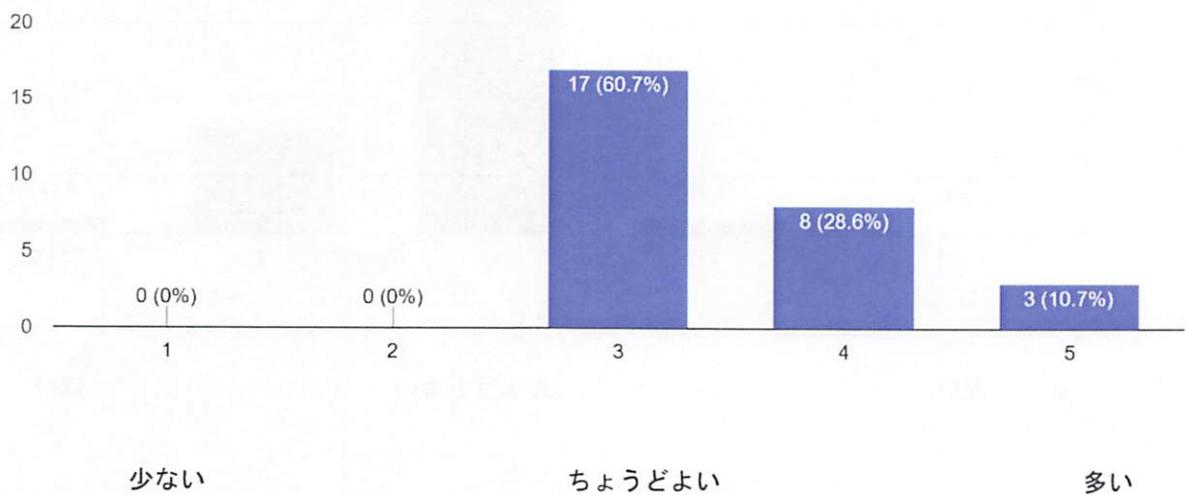
一回の講義内容の量は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

28件の回答



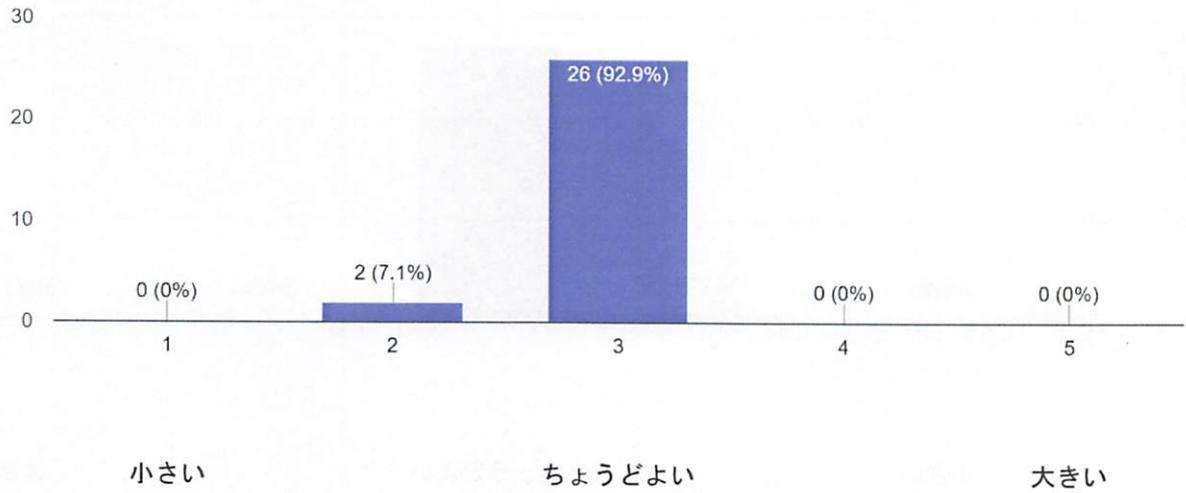
課題の量は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

28件の回答



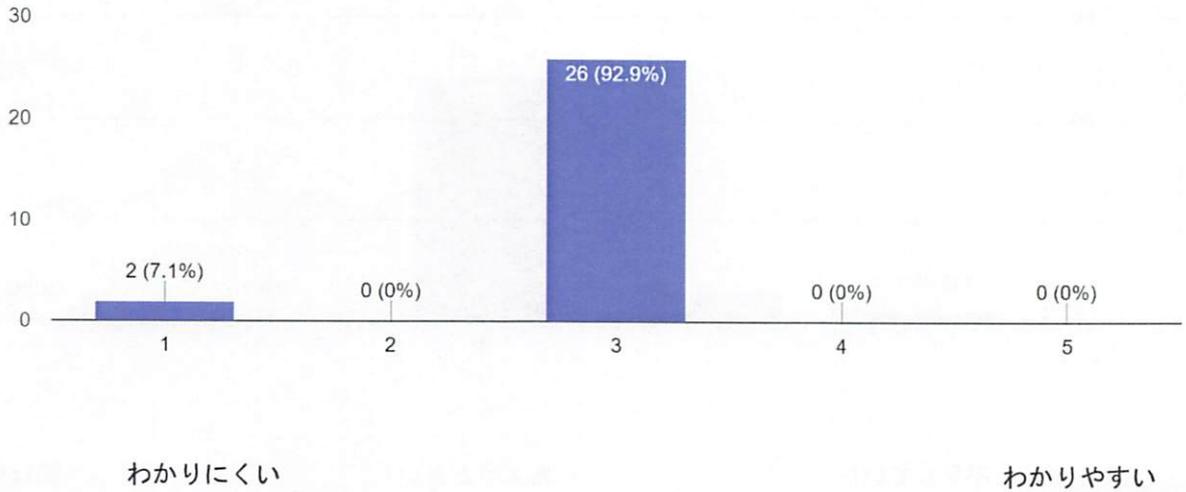
図の大きさは適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

28件の回答



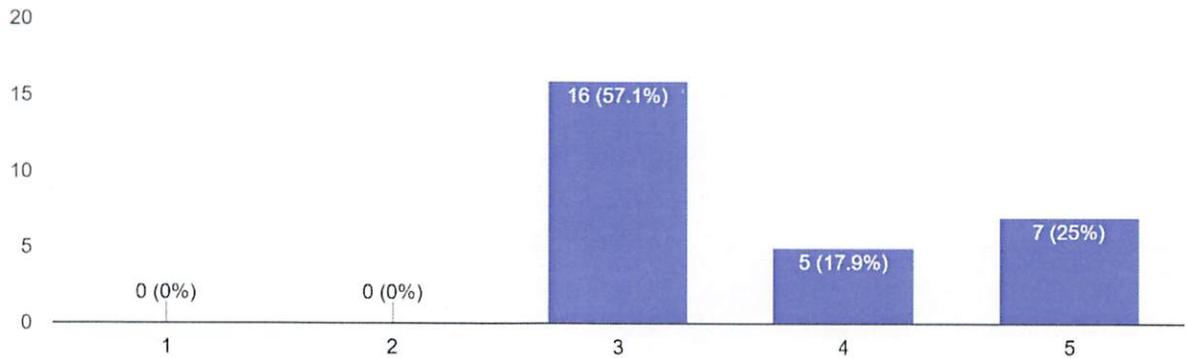
図の内容は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

28件の回答



講義はシラバスの記載通りに実施されましたか？（どちらともいえない場合は3を選んでください）

28件の回答



されていなかった

された

自由記述欄

- ・水木金でやって頭が痛くなりました
- ・自分の意見を持つことの重要性が学べた
- ・前半のテーマが難しいと感じた
- ・去年どんな感じだったか見せて欲しかった
- ・グループでの討論が楽しかった
- ・自分の意見を相手に伝えることの難しさを実感した。
- ・自分の考えを伝えるのが少し得意になれた
- ・グループワークに苦手意識がありましたが、先生方のサポートもあり自発的に考え、まとめることができたと思います。「誰が」「誰に対して」など、テーマや提案の対象と範囲をどの程度まで設定して良いのかがわからず、少し混乱してしまった部分がありました。

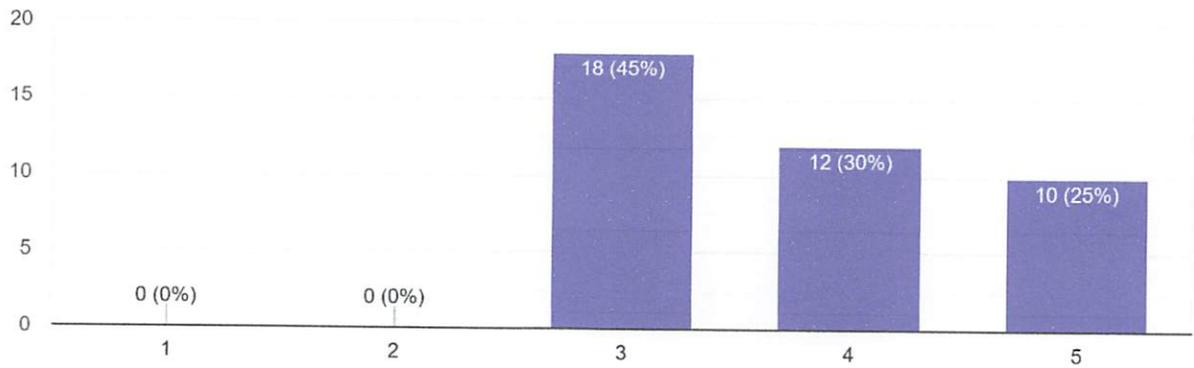
2024 年度 薬学部授業評価アンケート

科目名	調剤学	科目担当教員	加賀谷肇
コード	YCPF2	配当年次	3 年後期
評定点	93.73	必修・選択の別	必修

アンケート結果

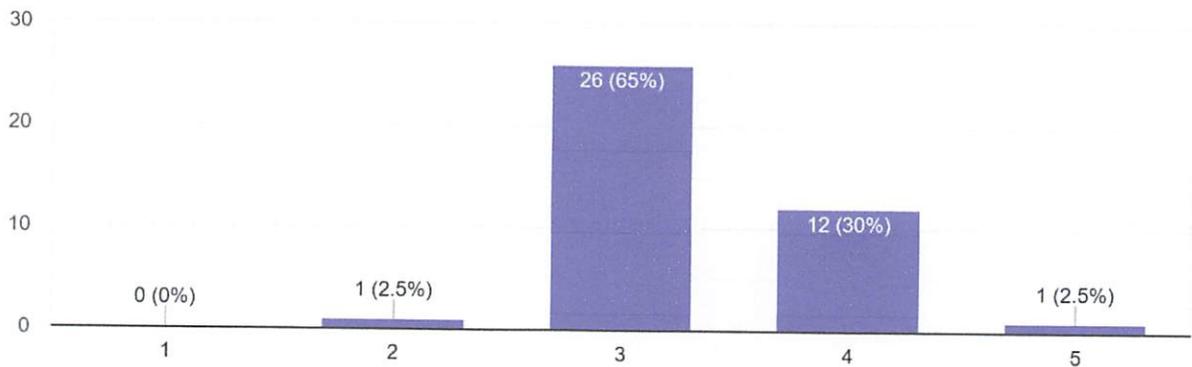
この科目に関する学修意欲はどうでしたか

40 件の回答



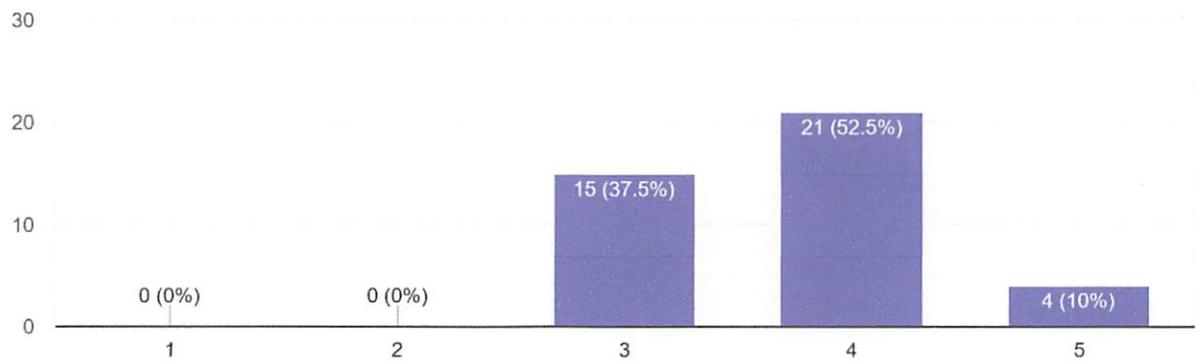
この授業の難易度はどうでしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

40 件の回答



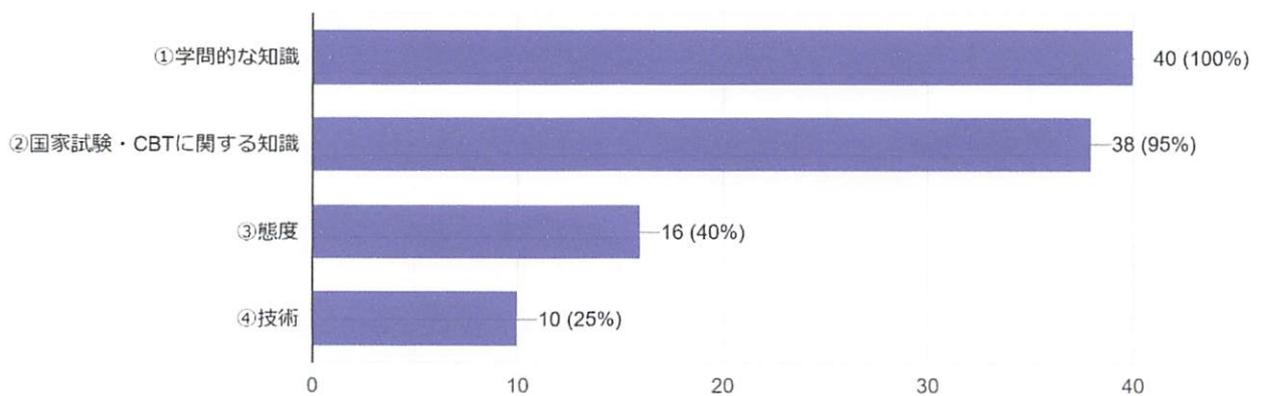
この授業の内容は身に付きましたか (到達目標を達成できましたか)

40 件の回答



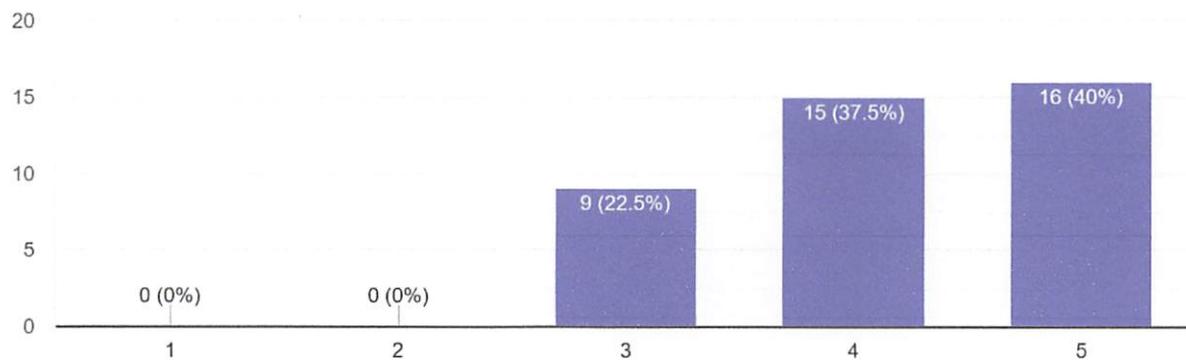
到達目標を含め、身に付いたと思うものはどれですか (複数選択可)

40 件の回答



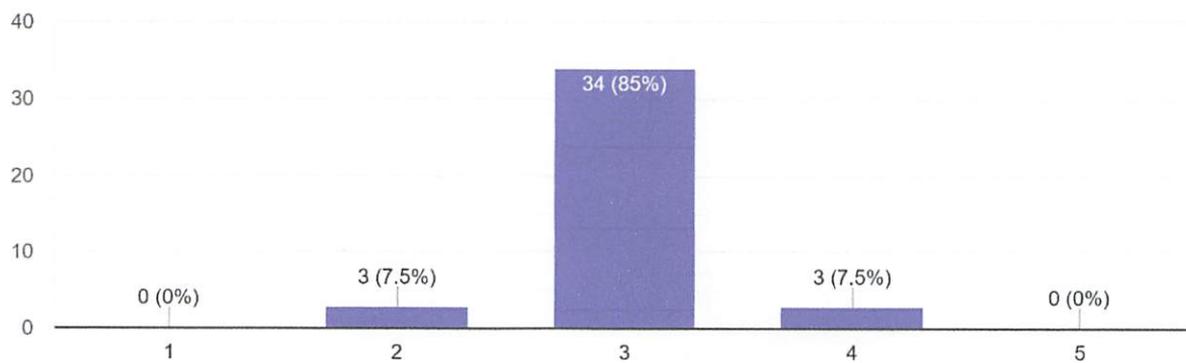
教員に熱意は感じられましたか

40件の回答



講義の進行速度は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

40件の回答

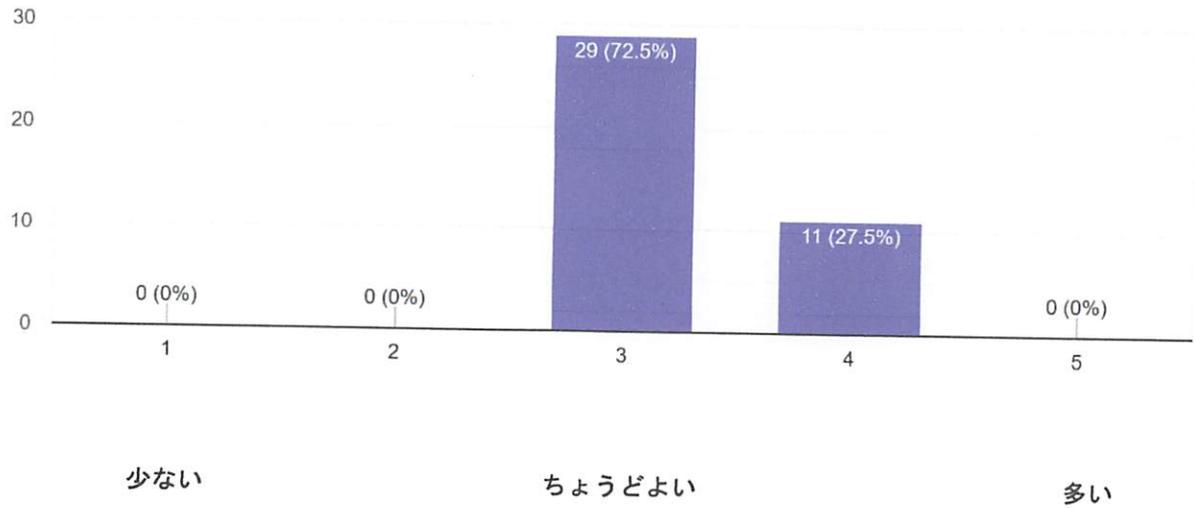


遅い

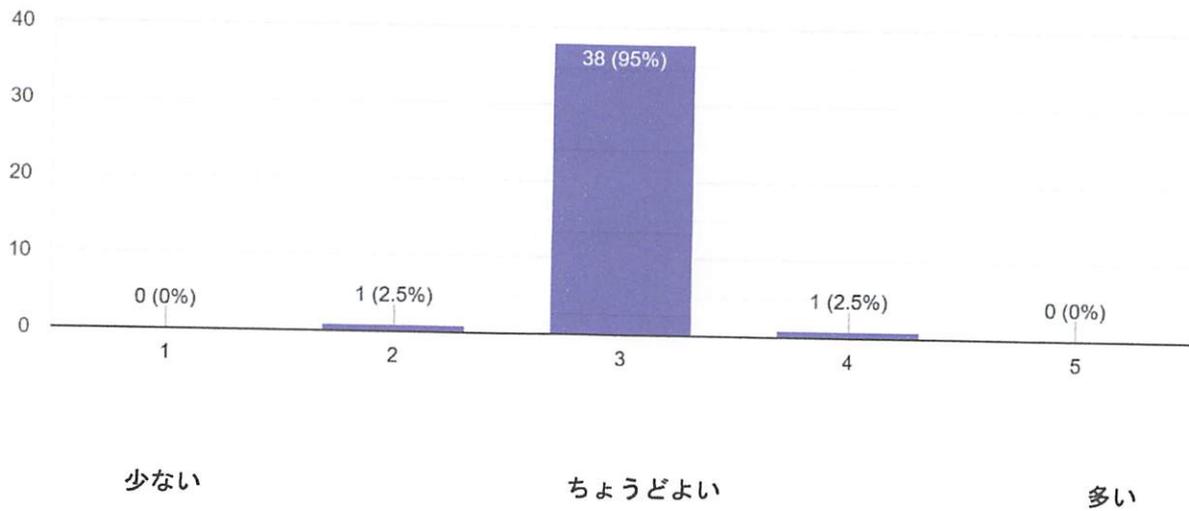
ちょうどよい

速い

一回の講義内容の量は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）
40件の回答

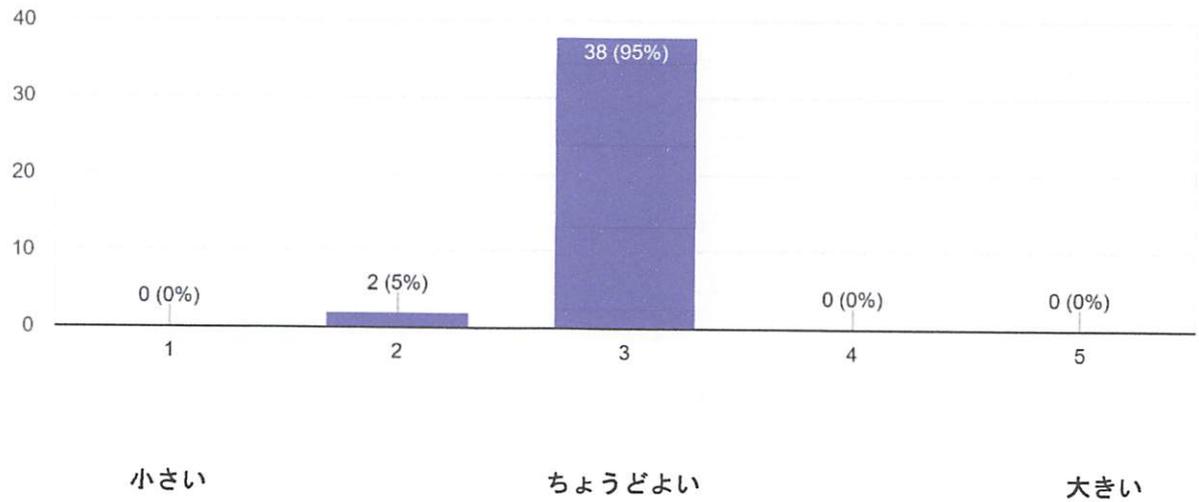


課題の量は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）
40件の回答



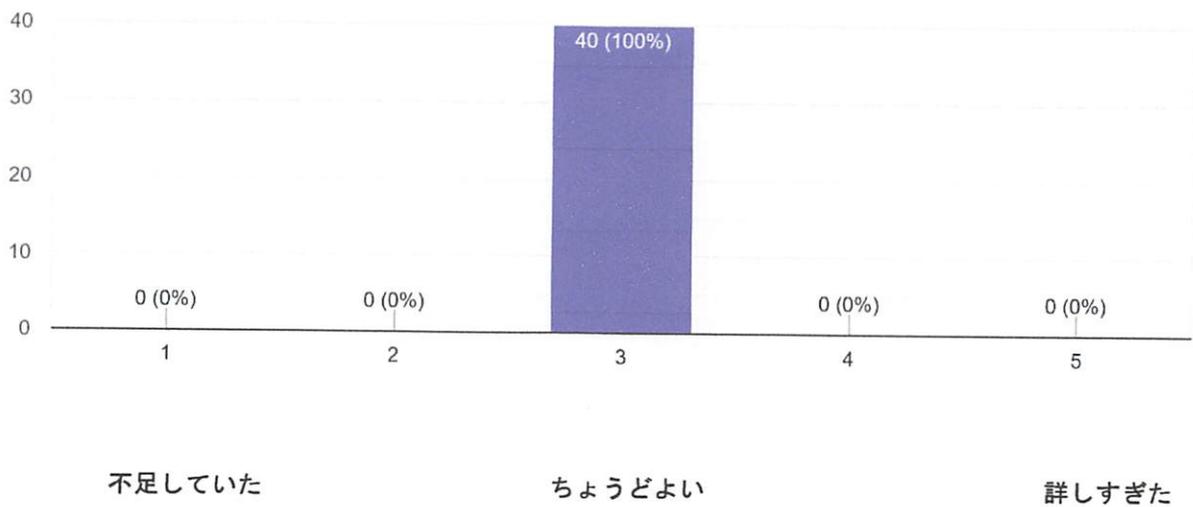
字の大きさは適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

40件の回答



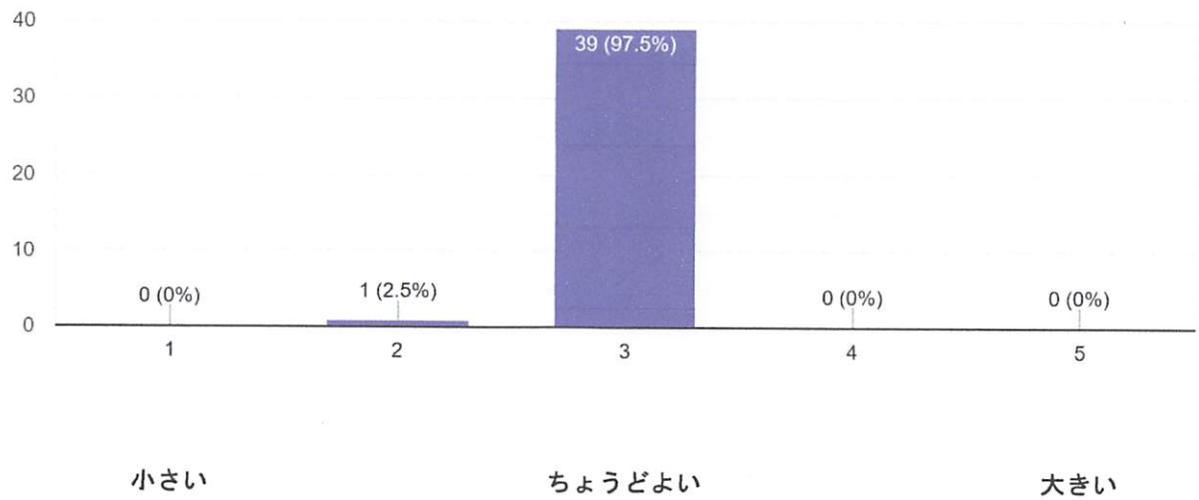
資料・板書の内容は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

40件の回答



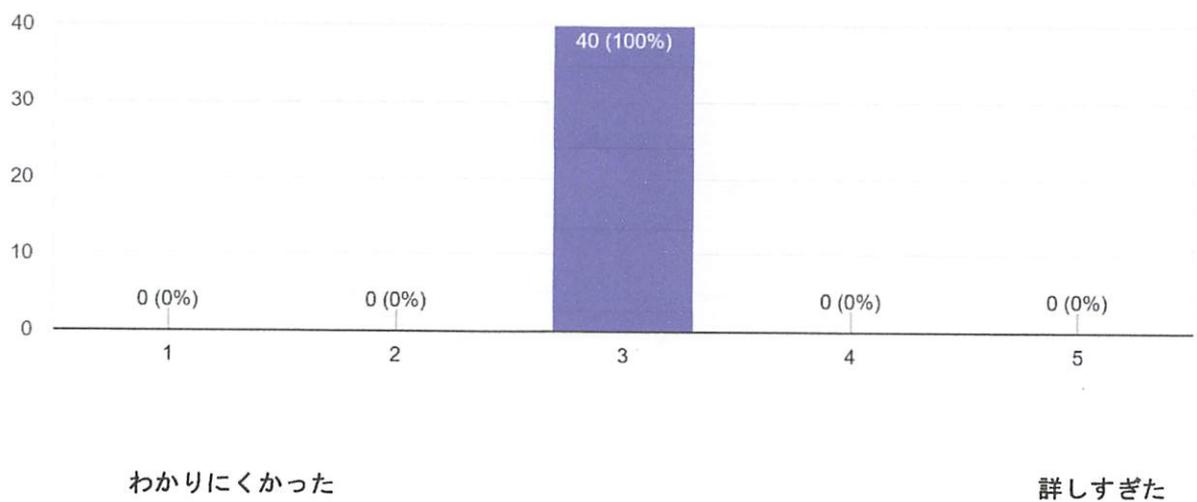
図の大きさは適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

40件の回答

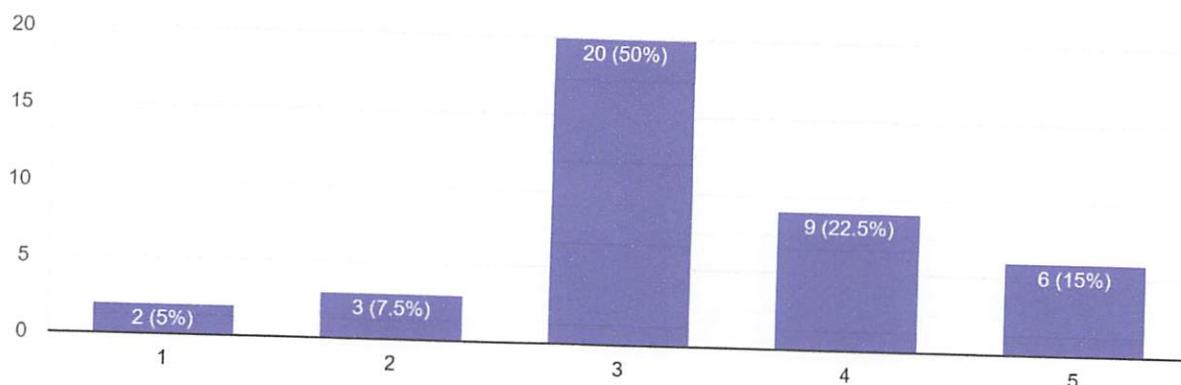


図の内容は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

40件の回答



講義はシラバスの記載通りに実施されましたか？（どちらともいえない場合は3を選んでください）
40件の回答



されていなかった

された

自由記述欄

- ・他の科目の知識と結びつけながら勉強したらより理解が深まった
- ・資料が見やすかったです。
- ・より実践的な内容が多くてまた新たな学びがあった。小テストを行うことで授業内容をより理解することができた。難しいところもあったが、少しずつ理解していきたい。
- ・資料内の図の文字が潰れていることがあった。授業は分かりやすかった。
- ・資料が見やすく、大事なポイントがわかりやすかったです。また、授業内で大事なポイントなどを言ってくださることで、復習がしやすく感じました。ダブルパック製剤なども実際に触ることができて良かったです。ありがとうございました。
- ・シラバス授業回と実授業回とで混乱を招きかねない
- ・講義内容が3人の先生方で被っていても、復習になるのでとても良かったです。また、国試問題を付けてくださったのが良かったです。小テストも復習の機会になったので良かったです。寺島先生の講義資料が分かりやすくてとても良かったです。



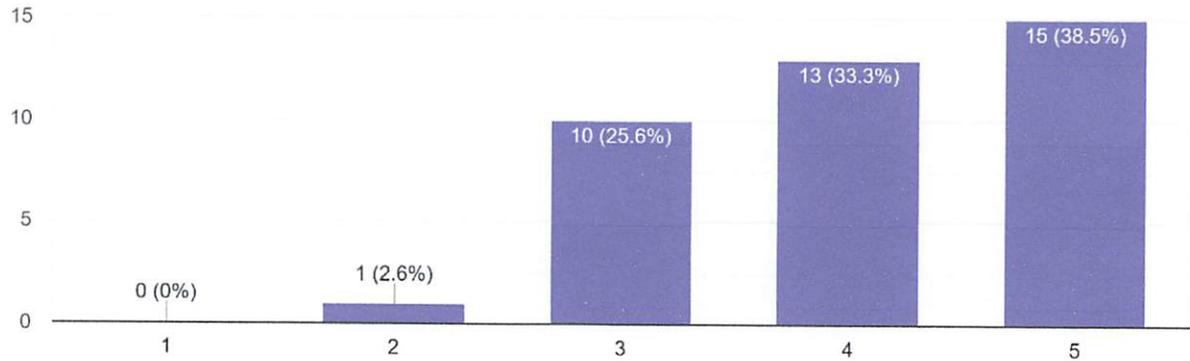
2024 年度 薬学部授業評価アンケート

科目名	実務実習事前学習 I	科目担当教員	寺島朝子
コード	YCPF2	配当年次	3 年後期
評定点	90.26	必修・選択の別	必修

アンケート結果

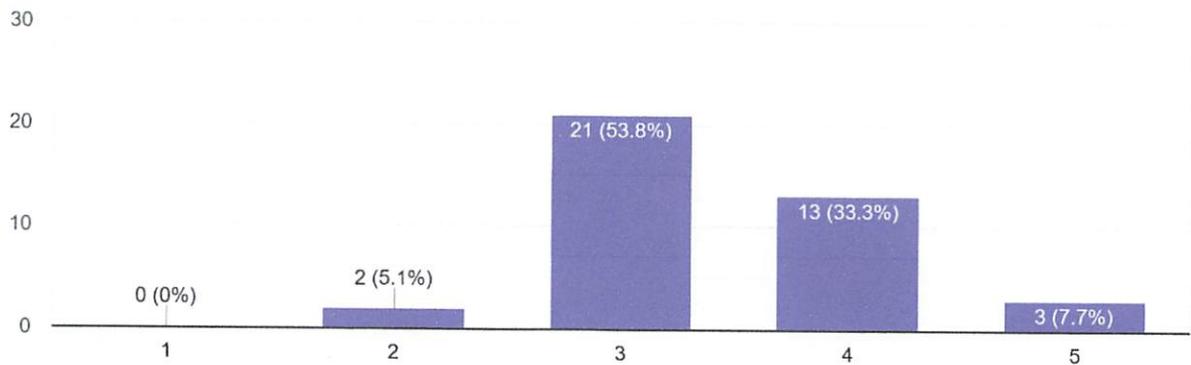
この科目に関する学修意欲はどうでしたか

39 件の回答



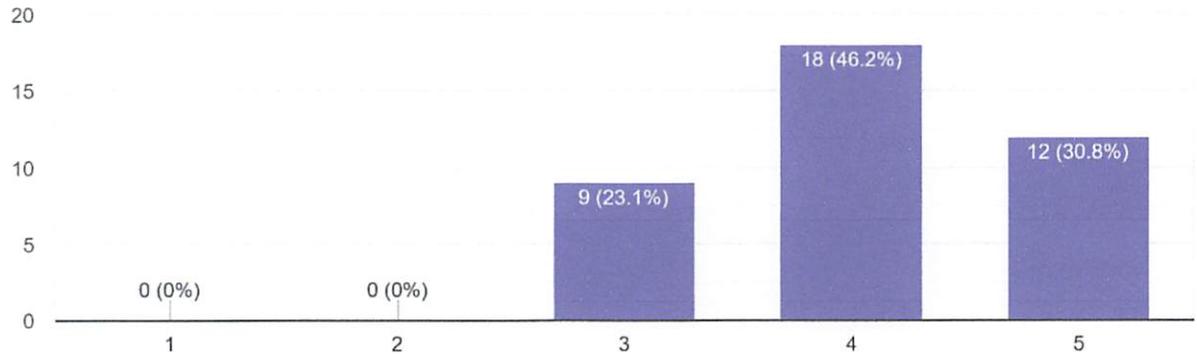
この授業の難易度はどうでしたか (ちょうどよかった場合は3を選んでください)

39 件の回答



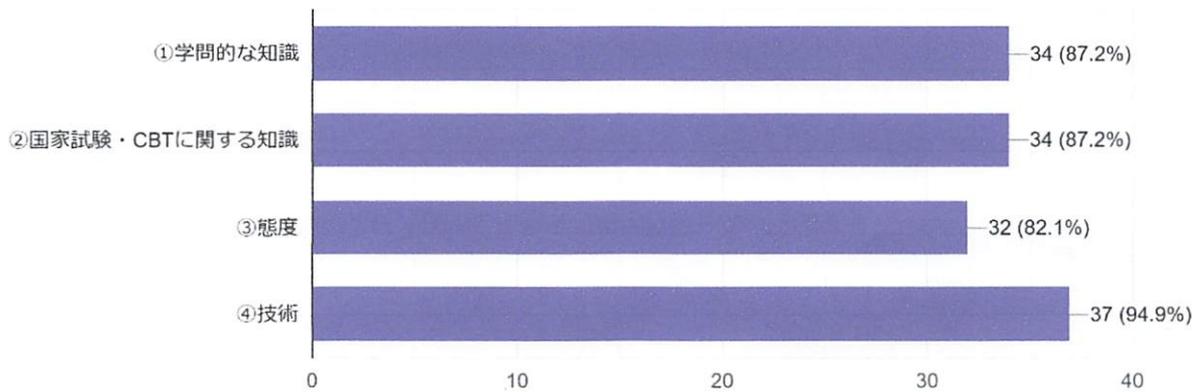
この授業の内容は身に付きましたか (到達目標を達成できましたか)

39 件の回答



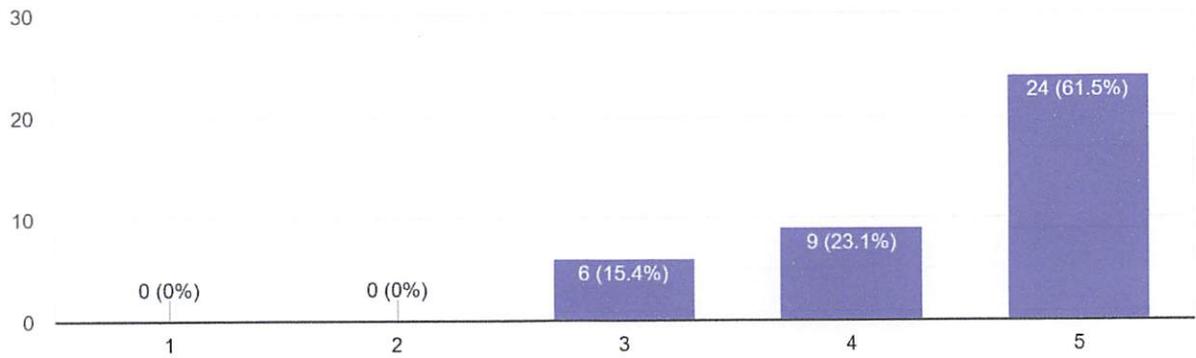
到達目標を含め、身に付いたと思うものはどれですか (複数選択可)

39 件の回答



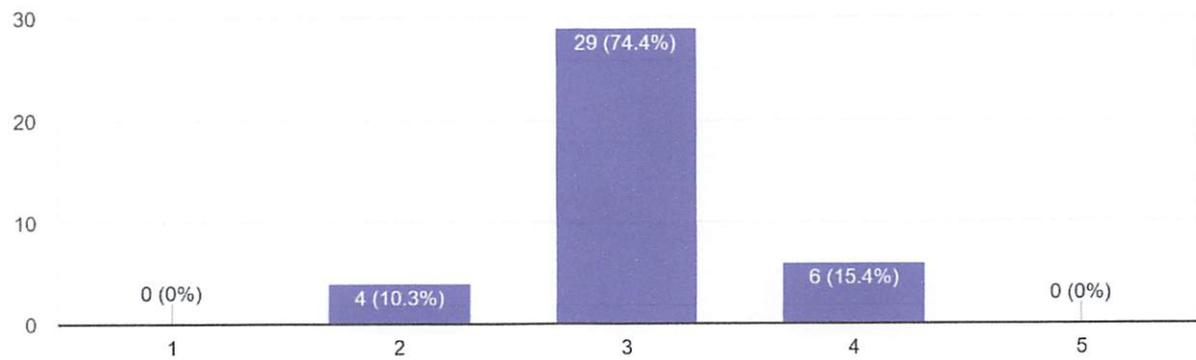
教員に熱意は感じられましたか

39件の回答



講義の進行速度は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

39件の回答



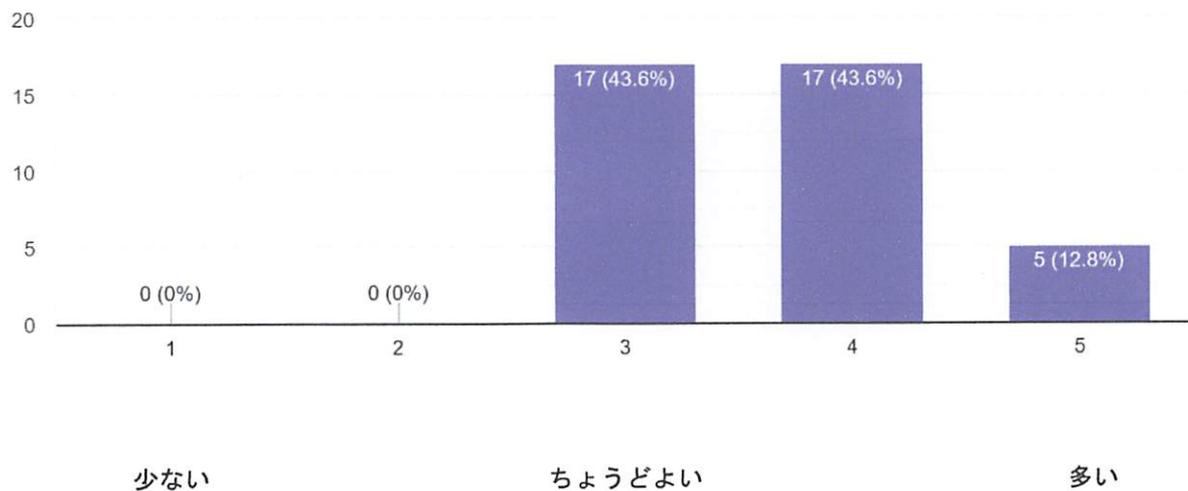
遅い

ちょうどよい

速い

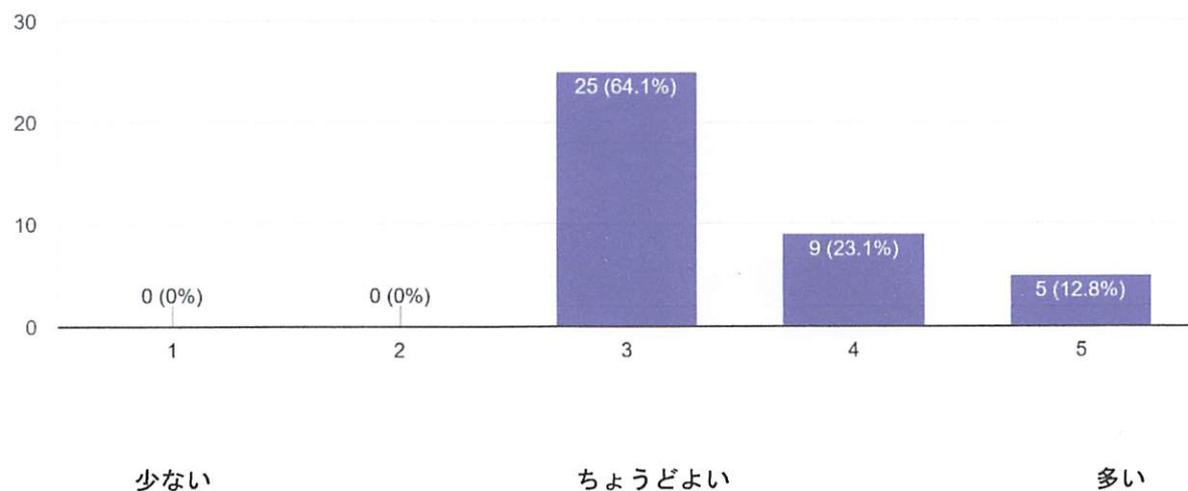
一回の講義内容の量は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

39件の回答



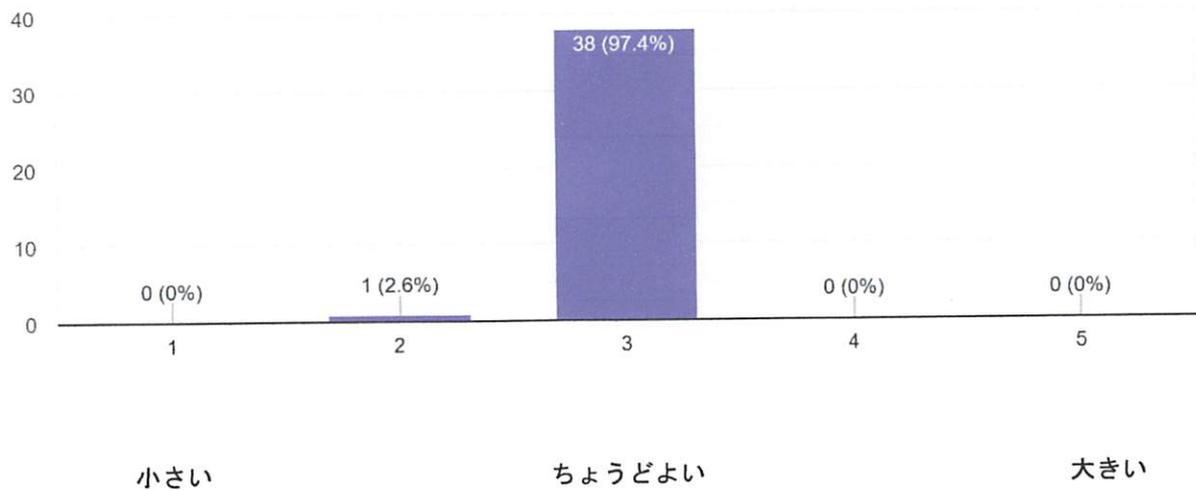
課題の量は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

39件の回答



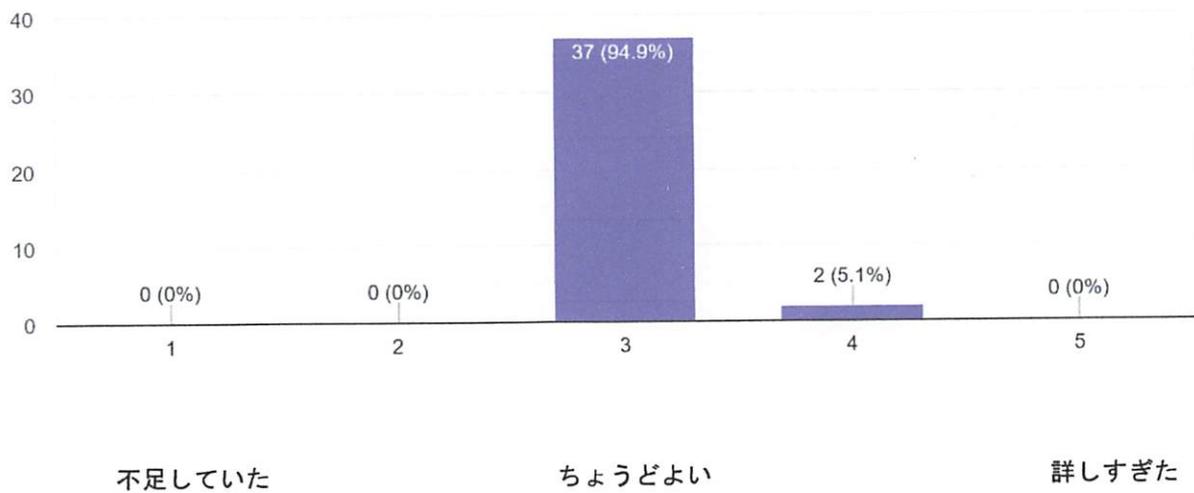
字の大きさは適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

39件の回答



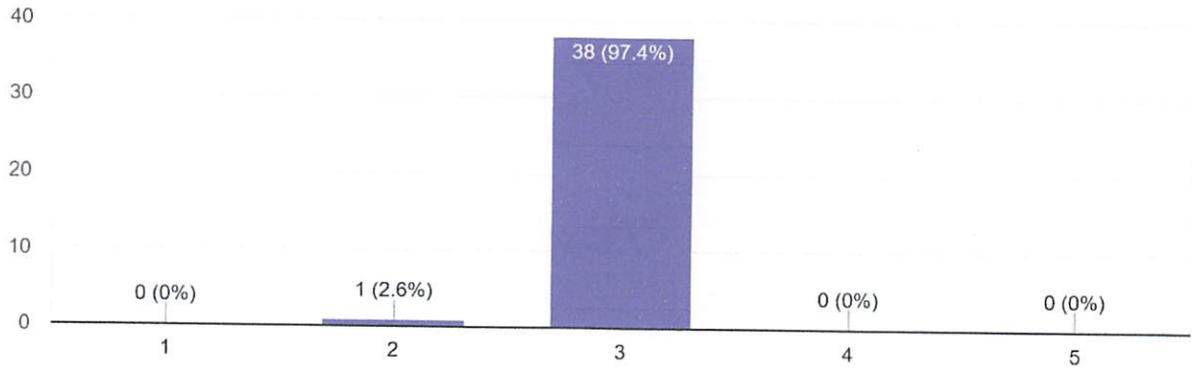
資料・板書の内容は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

39件の回答



図の大きさは適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

39件の回答



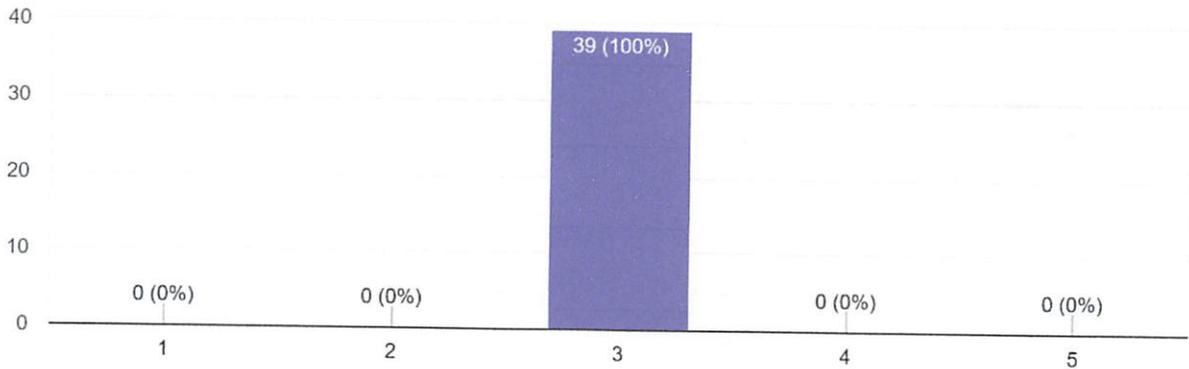
小さい

ちょうどよい

大きい

図の内容は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

39件の回答

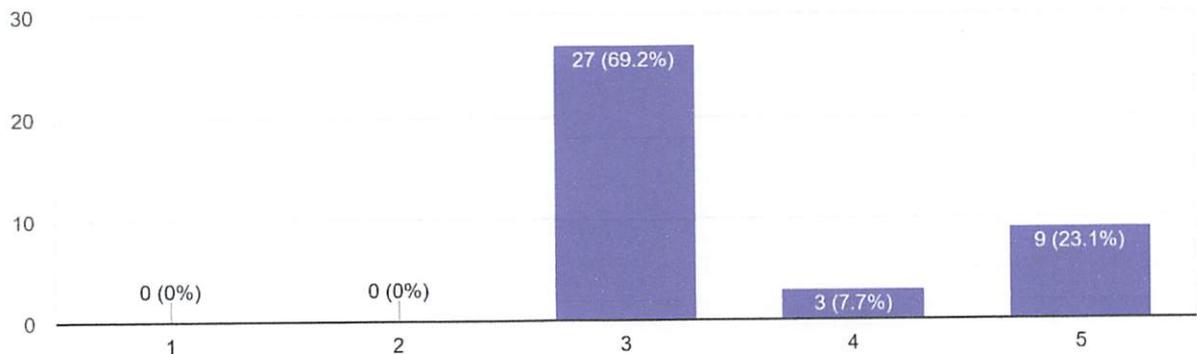


わかりにくかった

詳しくすぎた

講義はシラバスの記載通りに実施されましたか？（どちらともいえない場合は3を選んでください）

39件の回答



されていなかった

された

自由記述欄

- ・今回の実習で初めて学んだ技術が多く、面白かったです。特に水剤や軟膏調剤、TDM のソフトは扱い方なども知ることができ、楽しかったです。今回の実習では至らないところもたくさんありましたが、次に活かしたいと思いました。ありがとうございました。
- ・薬剤師の業務の流れが理解出来ました。日誌に書くことで自分自身を客観視することが出来ました。
- ・実際に触れて考えたりしたので面白かったです
- ・今後、薬剤師を目指す上で自身がどういった態度、技術が必要になっていくか分かってきた。
- ・座学だけでなく、実際に調剤を行えたのが良かったです。特に計数調剤などは患者さんを意識して行える作業だと思いました。また、製剤・配合変化の観察では成分がなぜ処方されているかを課題として出されていたのは薬剤の試験としても今後薬剤師としても役立つと思いました。事前予習なども今後の自分にとって良いことばかりなのであって良かったです。
- ・先生達の熱意が感じられた
- ・実践を学ぶのは楽しいと思うので、今までの実習の中で一番意欲的に取り組むことができました。
- ・寺島先生はで？それで？など、過去に自らおっしゃっていたお気に入り数名、特に西館には優しいですがそれ以外の人間には言葉が冷たい事が多々ありクラスメイトが理不尽に責められているのを何度も見た事があるので実習も不安で強いストレスを感じました。評価もお気に入りかどうかで点数が分かれるのではないかと考えてしまいます。
- ・実技が楽しかった

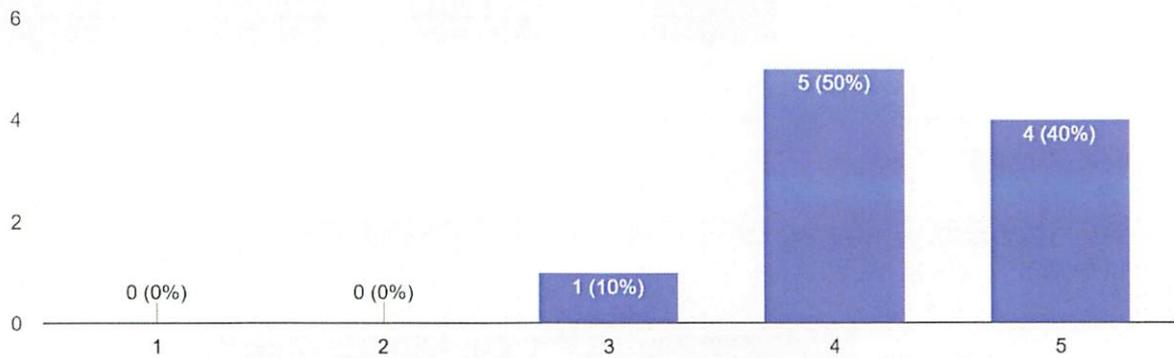
2024年度 薬学部授業評価アンケート

科目名	実務実習事前学習 II	科目担当教員	寺島朝子
コード	YCPF2	配当年次	4年前期
評定点	93.78	必修・選択の別	必修

アンケート結果

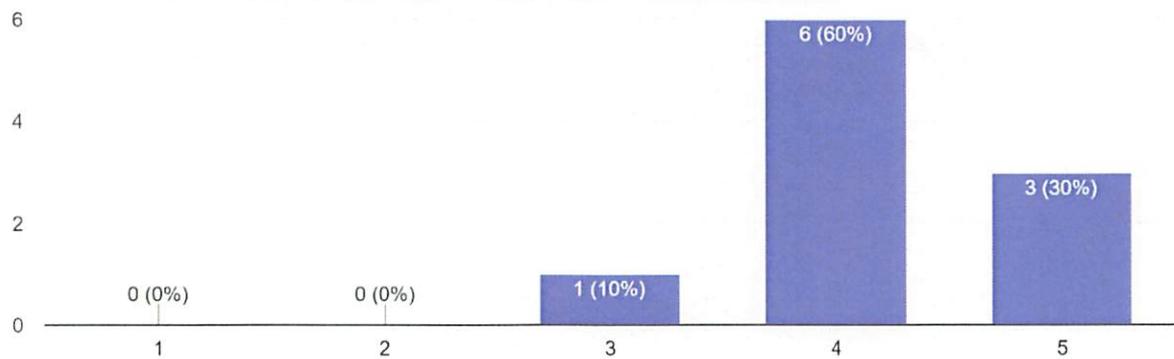
この科目に関する学修意欲はどうでしたか

10件の回答



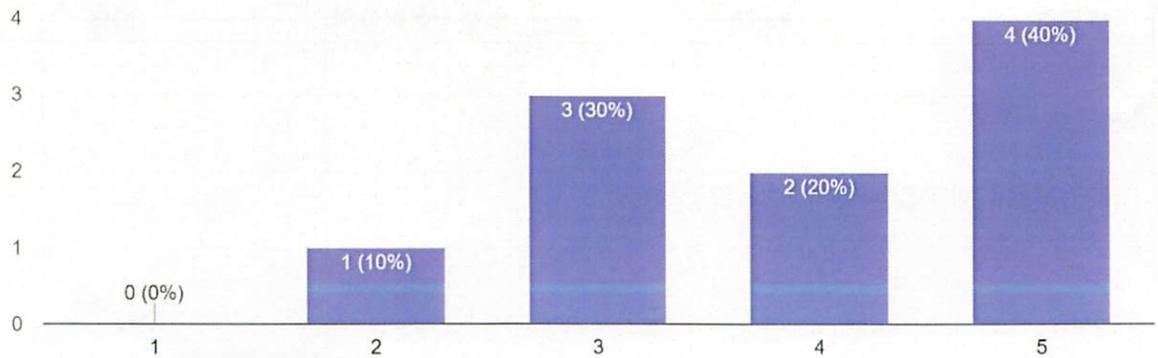
この授業の難易度はどうでしたか (ちょうどよかった場合は3を選んでください)

10件の回答



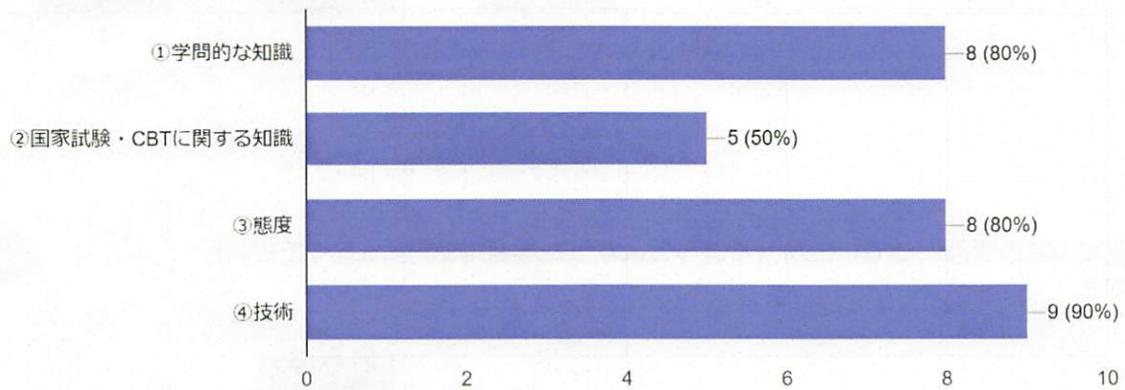
この授業の内容は身に付きましたか (到達目標を達成できましたか)

10件の回答



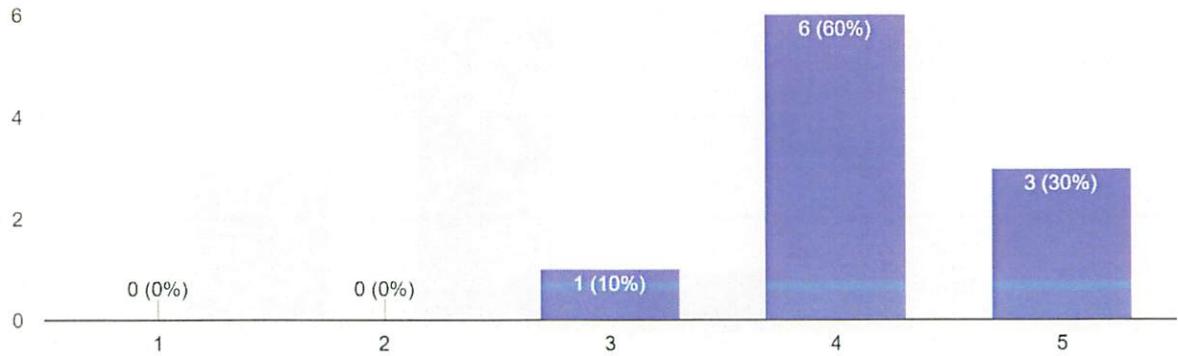
到達目標を含め、身に付いたと思うものはどれですか (複数選択可)

10件の回答



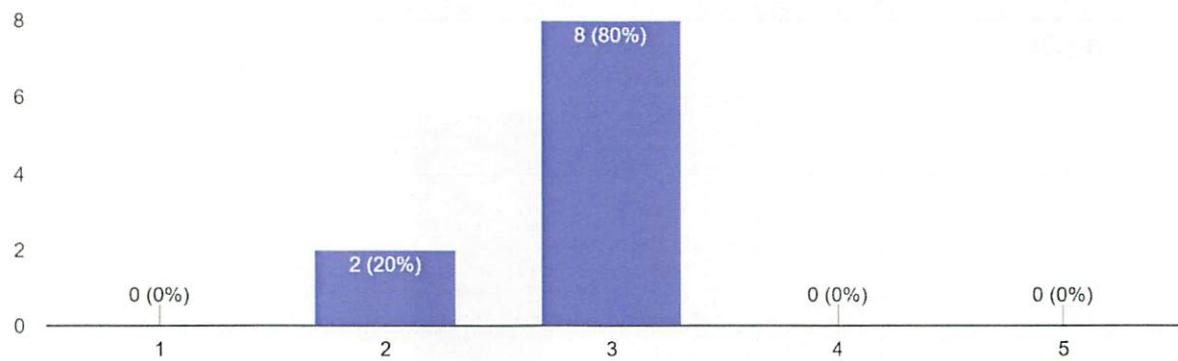
教員に熱意は感じられましたか

10件の回答



講義の進行速度は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

10件の回答



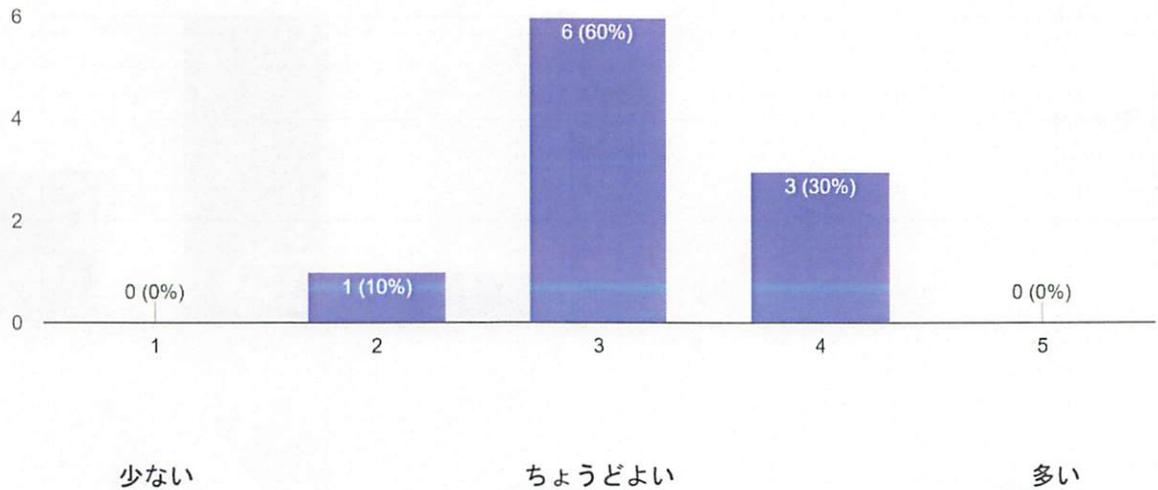
遅い

ちょうどよい

速い

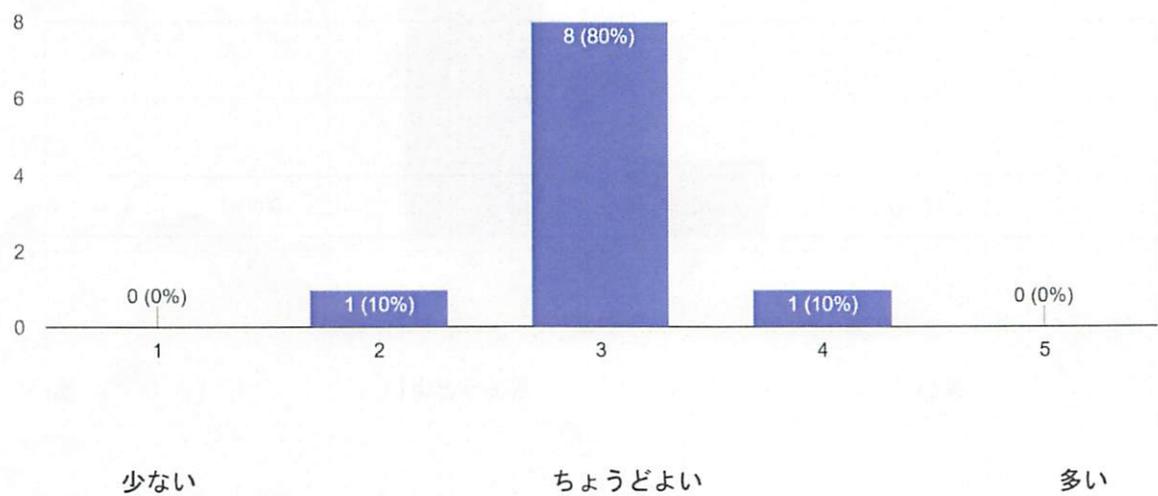
一回の講義内容の量は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

10件の回答



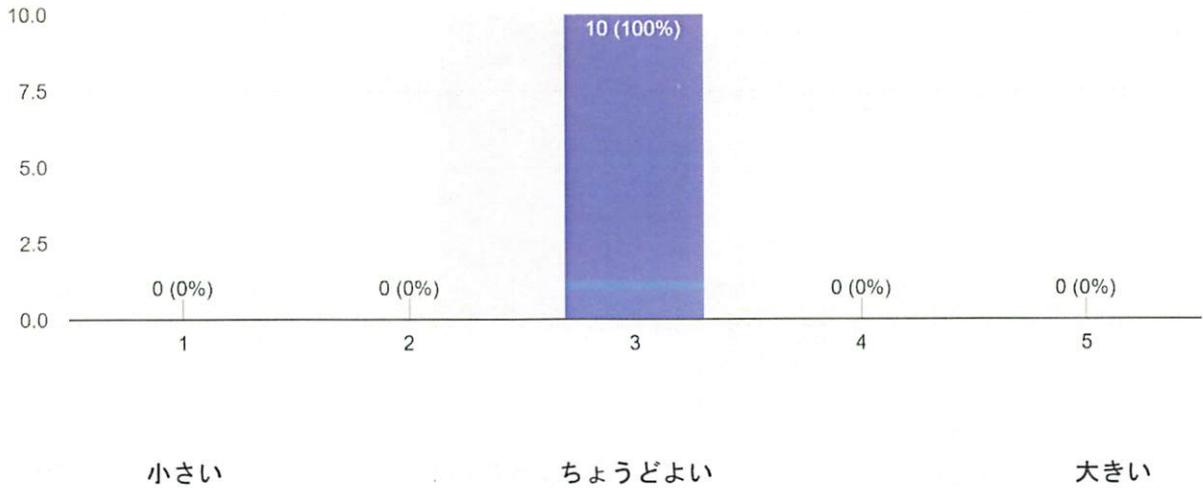
課題の量は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

10件の回答



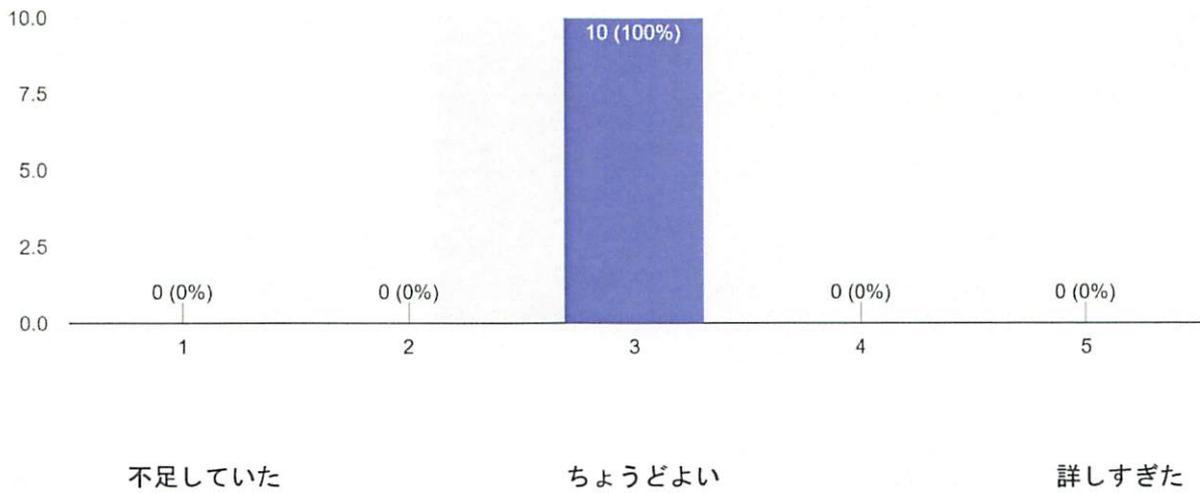
字の大きさは適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

10件の回答



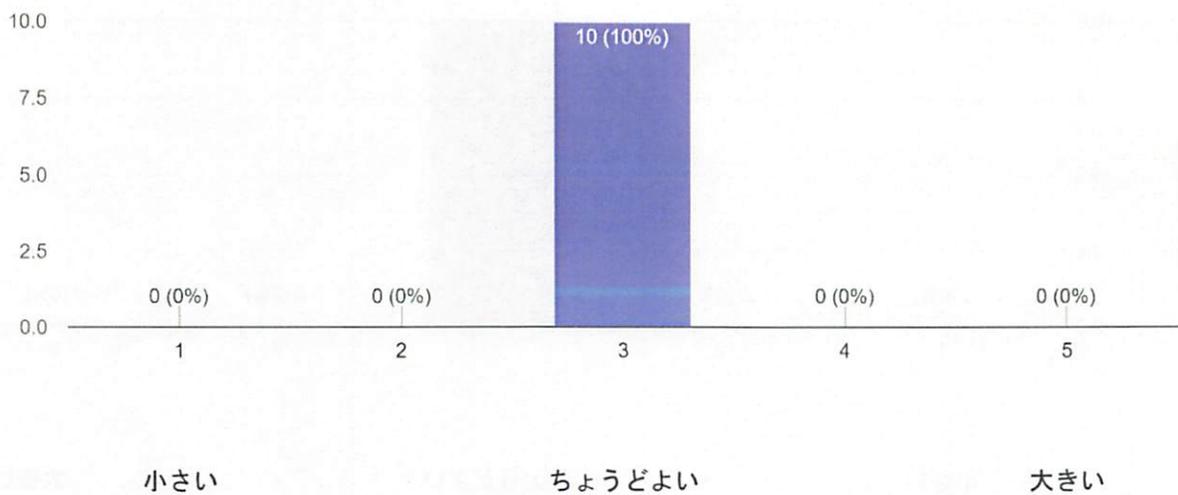
資料・板書の内容は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

10件の回答



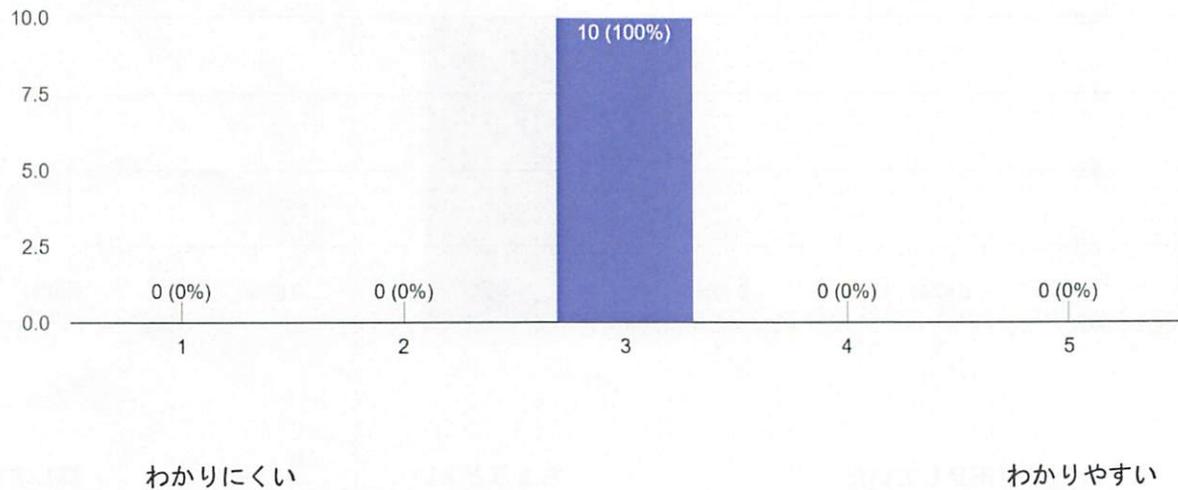
図の大きさは適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

10件の回答



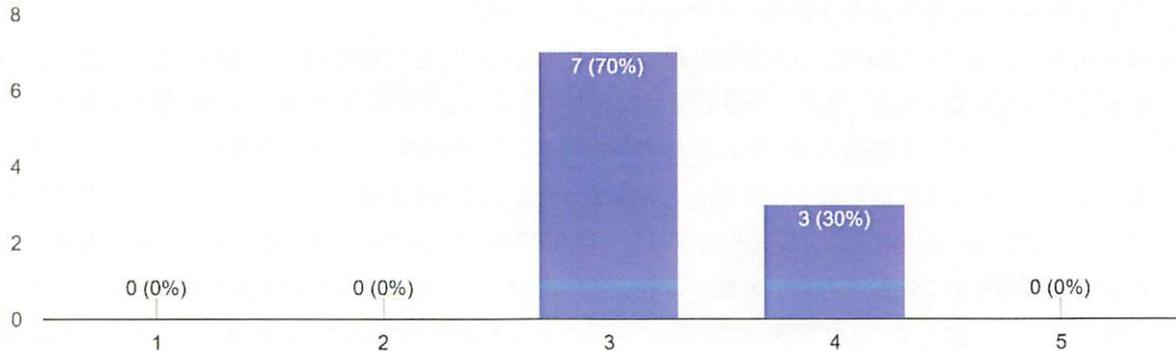
図の内容は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

10件の回答



講義はシラバスの記載通りに実施されましたか？（どちらともいえない場合は3を選んでください）

10件の回答



されていなかった

された

自由記述欄

- ・身だしなみについてその場で注意をして欲しかった。何が正解で何がダメなのか分からない。前髪や服装について自分で考えても修正できないと思う。
- ・OSCEの緊張感を味わうことができました。病棟や薬局のシュミレーションを行うことで、自分の知識がまだ足りていないことに気がきました。次の実習では、さらに知識を身につけて、視野を広くして取り組みたいと思いました。
- ・細谷先生の授業では先生方がしっかり役を作り込んでいて、実際に清美さんやかかりつけ薬局の人に電話かけているみたいで、これまでよりかなり実践みたいだったのにすごく楽しかったです。授業後のルーブリック評価を先生に見てもらったとき、とある教員のから「学生は普通評価は3だからね？」と言われてしまいました。あくまでも学生がつけているのは自己評価であり、客観的に先生方が見てくださっているとそのギャップを知ろうと言われていたので、私なりにできていると思ったから4をつけたのに、なぜそんなことを言われるのだろうかと落ち込みました。確かに、自信過剰になるのも良くないことはわかりますが、伝え方はあったのではないのでしょうか。同じ教員が3をつけていた学生に対して、「4でいいと思うけどな。」と言っていたことも耳にしました。学生が目の前にいる場で、鼻息みたいになるような言い方は良くないですし、ギャップに関しては中間評価でわかるはずですが、たった1人の教員の個人の感想で、自己評価を受け入れてもらえないようなことがあるのなら、わざわざ自己評価する意味がないと思います。また、学生記入欄に書いたことも「これは自己評価を4にするために書いたの？」と言われていました。そんなことはないのに、決めつけられたこと、悲しく思います。私は自分なりに頑張ったぞと思ったところを書いただけであり、必ずしも学生記入欄と数字の評価が相関するとも言えないのではないのでしょうか。数字の評価も学生記入欄も先生によって考え方が違うし、学生によっても数字の解釈や価値観がずれていくなれば、数字の評価は担当の先生が行い、学生記入欄のようなコメントでの評価は学生がやる方が良くないと思いました。中間発表の時

も、5はありえないと言うなら、「初めから5は絶対につけないで、学生のうちは最高でも4にしましょう」と案内をすれば、生徒もやりやすかったと思います。また、資料8の授業で、学内の先生方が講義をしてくださっているのに、後ろで薬剤師会の方同士でお話しされていて、聞こえなかったことがありました。次回の実習や下の学年ではそう言うことがないといいなと思いました。

- ・細谷先生を中心とした回は、やりがいや難しさを感じつつも、全体的に楽しく終わることができ、最も時間が短く感じた実習でした。また、今回行ったロールプレイは全体的に実務実習事前学習Ⅰの時よりも先生方からのフィードバックを個人で丁寧に行っていただき、自分の見直すべき点が明確に挙げることができました。反対に実務実習事前学習Ⅰではやっていなかったことは各回の班のメンバーで考え、より積極的に取り組むことができたと感じました。ルーブリック中間評価についてのお話が佐藤先生からありましたが、「5は現役薬剤師なのでありえない」とおっしゃっていましたが、ありえないのであれば上限は5であり現役薬剤師レベルと表記しつつも、学生につけないようにするべきなのではないかと感じました。また、各回の最後のルーブリック評価を先生方に見せた時に、自己評価でありながら学生がつけた数字に差異があるようにおっしゃっている先生がいました。自己評価にも関わらず、先生方から見た評価をその場で差異があるように促されるのは、自己評価ではないのではないかと疑問に感じました。また、数字で差異が明確に見え自己評価の意義がなくなるのであれば、リアクションペーパーのように実習で学んだことや実習中の自分の反省、振り返りを言葉や文で提出するべきであると感じました。資料番号⑧の竹内先生を主とした回で薬剤師会の方が来ていただきましたが、講義中に後ろで薬剤師会の方同士でお話になられていて、講義がとても聞き取りにくくなっていました。その後のロールプレイの流れなどを話されているので、非常に困りました。
- ・細谷先生の症例を追っていく実習は実際の薬剤師の動きのイメージがしやすく、今後に生かせそうだと思います。実習試験を通して、調剤は実習の時間だけで手技を身に付けることが難しかったことがわかりました。実習試験に向けて実習書を何回も読み直したり、イメージトレーニングを行いましたが出来ませんでした。自分の能力がないことが原因なのですが、実務事前実習ⅢでなくてもいいのでOSCEに向けて実習の時間とは別に練習できる時間を設けて欲しいです。
- ・1ヶ月前の実習内容を実技テストするのが結構難しかった（記憶的に）
- ・ルーブリック評価が複雑かつ抽象的でわかりにくい。評価に対する基準が厳しいのではないかと感じた。教員の方々の熱意は強く感じられた。

授業科目名 医療薬学チュートリアル演習 I

科目担当 寺島 朝子

	履修者数	回答数	回答率	1	2	3	4	5	6	7	8	9	-
				定着度	熱意	進行速度	内容量	課題量	字の大きさ	資料・板書	図の大きさ	図の内容	総合評価
担当科目	75	28	37.3	100.0	86.4	82.1	73.2	75.0	98.2	91.1	96.4	92.9	88.4
薬学部 平均	-	-	47.0	90.2	83.6	86.3	84.6	90.9	95.6	95.7	97.2	97.3	91.3
薬学部教員 平均	-	-	42.4	90.8	82.9	84.3	82.3	90.2	94.5	95.0	96.6	96.7	90.4

※70点より低い評価に色がつきます。

[質問内容]

1 : この授業の内容は身に付きましたか (到達目標を達成できましたか)

2 : 教員に熱意は感じられましたか

3 : 講義の進行速度は適切でしたか

4 : 一回の講義内容の量は適切でしたか

5 : 課題の量は適切でしたか

6 : 字の大きさは適切でしたか

7 : 資料・板書の内容は適切でしたか

8 : 図の大きさは適切でしたか

9 : 図の内容は適切でしたか

授業科目名 実務実習事前学習Ⅱ

科目担当 寺島 朝子

	履修者数	回答数	回答率	1	2	3	4	5	6	7	8	9	-
				定着度	熱意	進行速度	内容量	課題量	字の大きさ	資料・板書	図の大きさ	図の内容	総合評価
担当科目	27	10	37.0	100.0	84.0	90.0	80.0	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	93.8
薬学部 平均	-	-	47.0	90.2	83.6	86.3	84.6	90.9	95.6	95.7	97.2	97.3	91.3
薬学部教員 平均	-	-	42.4	90.8	82.9	84.3	82.3	90.2	94.5	95.0	96.6	96.7	90.4

※70点より低い評価に色がつきます。

【質問内容】

- 1：この授業の内容は身に付きましたか（到達目標を達成できましたか）
- 2：教員に熱意は感じられましたか
- 3：講義の進行速度は適切でしたか
- 4：一回の講義内容の量は適切でしたか
- 5：課題の量は適切でしたか

- 6：字の大きさは適切でしたか
- 7：資料・板書の内容は適切でしたか
- 8：図の大きさは適切でしたか
- 9：図の内容は適切でしたか

演題番号：P098（8月18日（日）発表）

OTC化に向けた緊急避妊薬に関する一般消費者の情報ニーズおよび「性と生殖に関する健康と権利」に関する意識調査～第2報～

○中村 洋¹⁾、寺島朝子²⁾、竹平 理恵子³⁾

1) 城西国際大学薬学部、2) 湘南医療大学薬学部、3) 北里大学薬学部

【目的】

2023年11月から「緊急避妊薬販売に係るモデル的調査研究」が行われ、緊急避妊薬(ECP)のOTC化に向けた動きが顕在化してきている。「国民の健康な生活を確保する」専門職の薬剤師には薬学的な情報提供のみでなく、個々の「性と生殖に関する健康と権利(SRHR)」への考え方やニーズに合わせた支援が求められる。既に我々はECPの使用経験がない一般消費者(未使用群)にWEB調査を行い、SRHRに関する意識およびECPに関する情報ニーズを調査し、その結果を報告した¹⁾。今回は、ECP使用経験の有無によって生じる支援の違いを検討するために、使用経験がある一般消費者(使用群)を対象に調査を行った。

【方法】

本人またはパートナーにECPの使用経験がある15～59歳の男女、各125名(医療者は除外)にアンケートを実施し、SRHRの認知度、ECP使用におけるSRHRの重要度、ECPに関する情報ニーズを調査した。また、各項目について未使用群と使用群の差を比較した(有意水準5%)。

【結果】

使用群の男性44.8%、女性52.8%がSRHRを全く知らないと回答した。SRHRの概念は男性76.0%、女性79.2%が重要と回答した。避妊法の知識は未使用群よりも高く、特に経口避妊薬は男性72.0%、女性82.4%と高かった。ECPに関する情報ニーズは「購入価格」を除き使用群の方が高かった。「将来、妊娠できない身体になってしまわないか」は女性(20.0%)よりも男性(31.2%)の方の関心が高かった。「経口避妊薬(低用量ピル)と何が違うか」は女性で使用経験の有無で差が見られ、未使用群(17.0%)に比べ使用群(28.0%)が有意に高かった。説明資料の理解度は、全22項目でSRHRを重要と考える“重要群”の方が高かった。一方、使用群と未使用群の比較では、男性は6項目で有意差が見られたものの、女性では1項目以外は見られなかった。

【考察】

ECP使用群の方が避妊法の知識やSRHR認知度が高いのは、ECP使用に至るまでに関連する情報収集をしたこと、情報ニーズが高いのは、使用時に知りたいと感じたことが影響していると考えられた。説明資料の理解度はECP使用経験の有無よりも、SRHRを重要と考えるか否かが関与していると示唆された。以上からECPの適正使用に向けて薬剤師はSRHRのリテラシー教育にも関わっていく必要があると考えられた。

【参考文献】

1) 寺島朝子, 中村洋, 竹平理恵子: OTC化に向けた緊急避妊薬に関する一般消費者の情報ニーズおよび「性と生殖に関する健康と権利」に関する意識調査. 日本薬学会第144年会. 横浜, 2024年3月.

緊急避妊薬が必要となったら受診と OTC 購入のどちらを希望しますか？

「緊急避妊薬の入手法に関する希望」に対する質的検討

発表者：寺島朝子 1)、中村洋 2)、竹平理恵子 3)

- 1) 湘南医療大学薬学部
- 2) 城西国際大学薬学部
- 3) 北里大学薬学部

【目的】2023年11月から「緊急避妊薬販売に係るモデル的調査研究」が行われ、近い将来、薬剤師が薬局の店頭で緊急避妊薬(ECP)を扱う場面を想定した教育が必要になることは想像に難くない。これまで我々は一般消費者のSRHRに関する意識とECPに関する情報ニーズを明らかにしてきた。今回はECP販売において薬剤師が配慮すべき事項を見出す目的で一般消費者のECP入手法の希望に着目し、その心理を質的に検討した。

【方法】ECP使用経験者250名(男性125名、女性125名)を対象に、ECPを入手するとしたら受診による処方とOTC購入のいずれを希望するかとその理由を調査し、理由の記述を処方希望群とOTC希望群に分け、SCAT(Steps for Coding And Theorization)により質的に分析した。

【結果】処方希望群の観点「心理的不安の払拭」では、医師の専門知識や経験を安心の拠り所としてECPの説明を求めていることが示された。「対面でのやり取りの希求」では、悩みや不安を直接話せる相談相手の必要性が示された。OTC希望群の観点「羞恥心による受診回避」では、医師に説明する恥ずかしさや受診の受付などで衆目を意識する心情が示された。また、「迅速使用のための気軽な薬局活用」ではすぐに受診できない状況でも生活スタイル合わせて利用できる都合の良さへの期待、「OTC化による医療費節約」では医療費節約への期待といった時間効率や費用対効果を高めたい意向が示された。

【考察】一般消費者がECPの入手を決定する際には多様な思いがあり、ECP使用経験者であってもその使用に係る悩みや不安を話せる相談相手を求める一方で、医師を含む他者に知られることへの恥ずかしさから受診回避のためにOTC購入を考えることが示唆された。また、一般消費者にはOTCの利便性に対する期待があり、ECPがOTC化された場合、将来的には全国のどのような薬局においてもすべての薬剤師がECPの求めに対応できることが必要になると考えられる。すなわち、薬剤師には薬局の店頭でECPを求める人の多様な思いに配慮し、相手の思いを受容して安心感を与えられるような対応ができることが求められるようになると思う。そのため、我々は今後に向けた備えとして、今回得られた観点を踏まえて学生や薬剤師のECP販売に係る技能や態度を育むための教材開発に取り組みたいと考えている。(924文字)

受付番号：0052(連番希望0043)／演題番号P099(8月17日(土)発表)